令和２年度 活動報告

１．令和２年度　運営会議および理事会報告

開催日	会議	場所	審議事項
4 月 5 日（日）	第 1 回運営会議	オンライン	第 1 回理事会運営について
4 月 12 日(日)	第 1 回理事会	オンライン	1．決算および予算案について 2．郵送による選挙について 3．千葉県助産師会総会の運営について 4．令和２年度「国際助産師の日」のつどいの開催について 5．活動基金事業の報告について 6．令和２・３年度運営会議・理事会日程 7．令和 2 年度教育計画について 8．チラシ同梱料金について 9．研究協力依頼について 10. 表彰候補者について 11. 新型コロナウイルス感染拡大に関する各地区の対応について
4 月 15 日(水)	第 1 回 電磁的理事会		後援依頼について
5 月 10 日(日)	第 2 回理事会 （総会後）	千葉県助産師会事務所	1．総会決議事項の確認 2．代表理事及び業務執行理事の確認
5 月 17 日(日)	第 2 回運営会議	オンライン	第 3 回理事会運営について
6 月 7 日（日）	第 3 回理事会	千葉市民会館（オンライン併用）	1．日本助産師会総会代議員の選出について 2．新型コロナウイルス感染症対応に関わる支援金の使途について 3．千葉県への要望書提出について 4．表彰者候補について 5．令和 2・3 年度の理事会日程について 6．新型コロナウイルス感染への対応について
8 月 22 日(土)	第 2 回 電磁的理事会		アンケート協力依頼について
8 月 23 日（日）	第 3 回運営会議	オンライン	第 4 回理事会運営について
9 月 2 日(水)	第 3 回 電磁的理事会		研修会開催について

開催日	会議	場所	審議事項
9月6日（日）	第4回理事会	オンライン	1．ウイルスに感染した妊産婦への寄り添い型支援事業について 2．表彰者候補について 3．千葉県助産師会産後ケア受託の要件(案）について 4．菜の花会の開催について 5．中間報告について 6．研究依頼について 7．「母親学級」時の臍帯血に関する説明について 8．令和3年度「国際助産師の日」のつどいの開催について
11月8日（日）	第4回運営会議	オンライン	第5回理事会運営について
11月22日（日）	第5回理事会	オンライン	1．後援依頼について 2．令和3年度の総会開催について 3．地区報告会の開催について 4．中間報告について 5．新型コロナウイルス感染症対応に関する支援金について 6．各理事・委員のインク代について 7．千葉県知事候補者の推薦について 8．生と性の健康教育特別委員会の継続について
令和3年 1月17日（日）	第5回運営会議	オンライン	第6回理事会運営について
1月31日（日）	第6回理事会	オンライン	1．千葉県知事候補者の推薦について 2．日本助産師会特別功労者について 3．日本助産師会福祉事業申請について 4．千葉県助産師会総会の準備について 5．庶務の増員について 6．スタジオアリスの契約について
3月7日（日）	第6回運営会議	オンライン	第7回理事会運営について
3月21日（日）	第7回理事会	オンライン	予定
4月4日（日）	第1回運営会議	オンライン	予定
4月11日（日）	第1回理事会	オンライン	予定
4月29日（木）	第2回理事会 （総会後）	千葉市文化センター	予定

２．令和２年度　事業計画の評価

目標	実施計画および具体的内容	成果
１．組織体制を強化し、連絡報告が円滑に行われる組織となる。	1) 定期的に総会・運営会議・理事会・各地区定例会・各部会・各委員会を開催し、組織的に取り組む。 2) 会員相互の連絡・報告が円滑に行われる組織を目指す。 3) 定款・細則・規程を見直し、組織運営を効果的なものにする。 4) 組織図を見直し、会の運営をより明確にする。 5) 日本助産師会と連携して組織運営を行う。	(1) 総会：令和 2 年 5 月 10 日（日）新型コロナウイルス感染拡大防止のため、日程を変更して書面表決を行った。 運営会議：6 回、理事会：7 回 ほとんどオンラインでの開催だった。 地区定例会・部会・委員会を定期的に開催した。 事業計画に則り事業の推進・調整・支援を行った。 (2) 大潮を年 3 回（第 32・33・34 号）発行した。 ホームページやメーリングリストを用いて、新型コロナウイルス関連の情報を含めて、随時会員に情報発信した。 (3) 定款及び細則を見直し、定款改定案を提示したが、書面表決の返信が正会員の 3 分の 2 に満たず、承認されなかったため、次年度に再度議案とする。 (4) 組織図に加えた「生と性の健康教育特別委員会」は今後も継続することとしたが、委員会の運営については検討を要する。 (5)日本助産師会総会の電磁的審議に代議員を派遣し、県代表として意見を述べた。 日本助産師会･南北関東地区の代表者会議に参加して協議した。 新型コロナウイルス感染については、日本助産師会と情報共有し、連携して対策を実施した。
２．地域で活動する助産師に対し、安全対策への組織的な取り組みを行う。	1) 助産所の質の維持を図る。 2) 事故事例、ヒヤリハット・グッドジョブ事例を通し母子の安全に努める。 3) 母乳育児支援に関する安全評価を実施・報告する。 4) 保健指導出張専門者向け安全管理指針の策定を推奨する。 5) 安全のための講習会の受講を推進する。 6) 日本助産師会賠償責任保険への加入を推進する。 7) 千葉県や市町村と連携して安全対策を行う。	(1) 助産所 3 か所の安全管理評価を実施した。 評価後の改善策への取り組みを支援した。 (2) 事故事例 1 件あり事故調査報告書にて報告した。 ヒヤリハット事例の活用はできなかった。 グッドジョブ報告にて情報共有を行い、今後の安全向上に役立った。 (3) 母乳育児支援に関する安全評価は例年通り行ったが、感染対策における評価は検討が必要である。 (4) HP に掲示した安全管理の指針によって、保健指導出張専門者が安全管理指針を策定できるように支援した。 (5) 対面での研修会は、コロナ禍でほとんど中止になったが、可能な範囲で受講できるようにした。 新型コロナウイルス感染対策として、情報交換会および研修会を開催した。 (6) 助産所・保健指導・勤務助産師それぞれに賠償責任保険への加入を推奨した。 (7) 地域でマスク等の物品確保に困窮した際には、千葉県に感染予防の物品提供を要請して提供を受けた。千葉市の HP へ電話相談番号が表示され、地域新聞から取材を受け PR を行った。
３．助産および母子保健事業を実施する。	1) 助産師の電話無料相談（ミッドワイフ千葉）を継続する。 2) 相談員の質向上に取り	(1) 産科施設や行政窓口に相談案内カードなどを配布し、PR 活動を行った。 46 名の相談員で電話相談を継続し、コロナ禍ならではの相談にも対応した。 (2) 相談員の質向上のために、研修会および事例検

	組む。 3) 「国際助産師の日」のつどいを開催する。 4) 地域と施設の連携の推進を図り、安定した継続母子保健活動を行う。 5) 産後ケアの質の向上を図る。	討会を開催した。 (3) コロナ禍のため、以下の開催は中止した。 テーマ：地域で支えよう　愛を伝える子育て 日時：5 月 24 日（日）10:00～14:00 会場：城西国際大学　東金キャンパス (4) コロナ禍ではあったが、地区活動等に勤務助産師も加わり連携を取りながら母子保健活動を実施した。各地区と関連施設が情報交換を行い、連携した。 (5) 産後ケアアドバイザーおよび産後ケア実務助産師研修修了者（50 名承認）の充実・普及に努めた。新型コロナウイルス感染の状況をみながら情報収集し、行政と協力して産後ケア事業を実施した。千葉県の「ウイルスに感染した妊産婦への寄り添い型支援事業」に協力した。
4．助産師のキャリア・アップを支援する。	1) 助産師の継続教育として必要かつ効果的な研修会を開催する。 2) CloCMiP ラダーⅢの認証および更新を推進する。 3) 各種表彰を推進する。	(1)日本助産師会の教育体系に沿って教育計画を立案したが、コロナ禍のため中止した研修会が多く、開催した研修会もオンライ研修会に変更した。 (2) ラダーⅢの認証および更新に必要な情報を収集し、ラダーⅢ対応の研修会を開催した。 (3) 各種表彰に既定数の候補者を選出し、会を通して表彰の候補者を推薦した。
5．講師を育成し、健康教育を実施する。	1)「生と性の健康」の意義・必要性について会員の理解を深める。 2)「生と性の健康教育」の方略を検討する。	(1) 研修・交流会をオンラインで開催した。 会員メーリングリストを利用して、ニュースレターを年 3 回発行した。 (2) コロナ禍で状況が大きく変わったが、各地区で様々な工夫をして講座を開催した。 「新しい日常」の中で健康教育をどう継続するか検討する必要がある。
6．災害対策への取り組みを強化する。	1) 災害発生時に対応できる組織を整備する。 2) 日本助産師会や市町村との連携を強化する。	(1) 災害時の連絡網を整備し、情報共有を図った。 災害時支援のシミュレーション訓練を実施し、災害時支援マニュアルの見直しを継続した。 (2) 日本助産師会主催の研修会に参加し、近隣助産師会と災害時に協力し合うことを確認した。 地域の防災訓練は中止または参加できず、千葉県リエゾン研修会に参加した。 各市町村との災害支援協定を締結し、締結後の活動を確認した。
7．会員増加と会員同士の交流を図る。	1) 会員の定着により助産師会活動の活性化を図る。 2)会員同士の交流を図る。	(1) 会員の増加を目指し、目標 360 名のところ、1 月 20 日現在の会員数は 363 名（年度末退会者を除く）で目標を達成した。 コロナ禍で研修会は減少したが、非会員の研修参加を促し入会の機会とした。 (2) コロナ禍で大人数での会食はできず、菜の花会は開催しなかった。 世代や部会を超えた会員同士の交流の場として、今後の菜の花会の在り方を検討する必要がある。
8．千葉県助産師会の事務所の管理・運営の安定化を図る。	1) 事務所の管理・運営方法を見直す。 2) 事務員の雇用の安定化を図る。	(1) 事務所の管理・運営方法については、見直している。事務員と庶務の役割分担については検討中である。事務所運営費の具体的な見通しや事務所内の書類・物品の整備は今後も継続していく。 (2) 退職した事務員の後任が決まり、雇用が安定した。事務員が働きやすい環境については今後も継続して検討する必要がある。

３．地区活動報告

千葉県助産師会地区割り

地区部会名		市町村名					
1	柏･野田・我孫子・流山・松戸地区部会	柏市	野田市	我孫子市	流山市	松戸市	
2	市川・浦安・地区部会	市川市	浦安市				
3	船橋地区部会	船橋市					
4	習志野・八千代・鎌ケ谷地区部会	鎌ケ谷市	習志野市	八千代市			
5	印旛地区部会	白井市	印西市	佐倉市	成田市	酒々井町	富里市
		栄町	八街市	四街道市			
6	香取・海匝・山武地区部会	銚子市	旭市	匝瑳市	横芝光町	芝山町	東庄町
		東金市	山武市	多古町	神崎町	香取市	
		大網白里市		九十九里町			
7	千葉地区部会	千葉市					
8	長生・夷隅地区部会	茂原市	白子町	長生村	一宮町	長南町	睦沢町
		勝浦市	いすみ市	大多喜町	御宿町	長柄町	
9	市原・君津・安房地区部会	市原市	木更津市	君津市	富津市	袖ケ浦市	鴨川市
		館山市	南房総市	鋸南町			

令和２年度　　第１地区　　活動報告　№.１

地区名：柏・野田・我孫子・流山・松戸 地区　　地区部会長：加藤　睦　　会員数：76 名

１．定例会開催　　９回（５月紙面表決総会、６月より定例会、８月は定例会無し）
　　そのうち、オンライン定例会６・10・12・２月

２．研修会
　開催せず（今年度は開催しないこととした）

３．行政および関連団体等の会議参加状況は 48 ページを参照。

４．行政への協力事業

内容	協力人数	内容	協力人数
柏市新生児訪問	7 名	流山市ﾊﾛｰﾍﾞﾋﾞｰ（両親学級）事業	3 名
柏市 8 か月育児相談	2 名	流山市産後ケア事業 ケア受託者	1 名
柏市にこにこダイヤル（育児相談）	2 名	流山市育児相談	2 名
我孫子市新生児・乳児全戸訪問	3 名	松戸市新生児・乳児全戸訪問	3 名
我孫子市しあわせママパパ学級	12 名	松戸市産後ケア事業 ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ	2 名
流山市新生児訪問	9 名	松戸市産後ケア事業 ケア従事者	6 名
流山市妊娠出産子育てｻﾎﾟｰﾄ事業	3 名	野田市新生児訪問	1 名
流山市「赤ちゃんと一緒」事業	2 名	野田市産後ケア事業 ケア従事者	3 名

５．健康教育・講演活動（生と性の健康教育）期間 2020 年 1 月～12 月

対象	回数	講師（実数）
小学生	46 回	4 名
中学生	15 回	3 名
高校生	1 回	1 名
保護者・PTA	2 回	2 名

６．地区助産師活動
　松戸市子育てフェスティバル実行委員会参加（次年度に向けての会議）
　流山市：NPO 事業 新米ママ講座・お産カフェ
　柏市：NPO 赤ちゃんのほっぺ 事業協力
　松戸市：親子 DE 広場（NPO 運営）相談業務、子育て支援センター 子育て講座、
　　社会福祉協議会 出生直後の支援事業支援者養成講座講師
　　ぶぶぶママ大学マタニティクラス母乳育児勉強会（市民活動助成事業）

令和２年度　　第１地区　　活動報告　　№.２

定例会開催：９回

目標	事業	結果および評価
１.会員同士の結束を図り、お互いの知識や技術の向上を図る	1) 定例会の開催 2) 地区交流研修会 3) 親睦会	・今年度はオンラインも交え、９回開催。時間も日中と夜と両方で開催、参加者を増やした。 ・今年度は、オンライン研修しかできないので、この地区で開催する意義が無いと考え、開催しないこととした。他のたくさんのオンライン研修会があり、それぞれが参加したものを定例会で共有した。親睦会は行わなかった。
２.地域に密着した助産師ができる保健活動を行う	1)子育て・女性の健康支援事業 2)我孫子市しあわせママパパ学級 3)松戸市産後ケア事業 4)多職種連携事業	・安全（感染予防）を踏まえながら、会員各自の活動をできる範囲で行っている。 ・地域の母子保健関連会議に参加、講師依頼があり講師派遣した（社会福祉協議会） ・COVID-19 対応の運営の仕方について話し合い、７月より再開し、再開後の運営についても再検討し、修正を重ね、行った。 ・市との話し合いが持てていない。定期的に会議を持つことを契約に入れることを検討。 ・令和２年度は行えなかった。
３.健康教育活動を充実させる	1) 性の健康教育事業 2) 性の健康教育講師の育成事業	・依頼数は少なく、開催の条件も厳しくなっているが、依頼元との関係継続のために、なるべく意向に沿って zoom も利用して行った。 ・教材のリニューアルをどうするか検討中。 ・今年度は、講座の見学を促すことはできない。生と性の健康教育特別委員会の活動の紹介、ニュースレターを読むこと、研修会への参加もよびかけた。
４．災害に備え、母子の災害時支援をする	1)災害対策事業 2)災害時母子支援事業	・県助産師会の発災時シミュレーション訓練に参加するために、発災時の行動を確認し、訓練後も気づきを共有した。２月の安否確認訓練に参加した。 ・今年度は、市の防災会議は資料配布のみ。 ・今のところ、周辺で災害は無く、支援は行っていない。が、協定市との初動確認ができていないので、今後確認していく必要がある。

令和２年度　　第２地区　　活動報告　　№.１

地区名：市川・浦安地区　　地区部会長：増田文子　　会員数：39 名

１．定例会開催　　年７回

２．研修会
今年度は開催なし

３．行政および関連団体等の会議参加状況は 48 ページを参照。

４．行政への協力事業

内容	協力人数	内容	協力人数
堀江子育て広場（浦安市社協）	７名	特別支援性教育講師（浦安市）	１名
赤ちゃんサロン（浦安市）	７名	浦安市養育支援訪問（浦安市）	３名
ほのぼのタイム（浦安・公民館）	７名	おやこ de はぐのび（公民館）	３名
こんぺいとう（浦安市）	７名	助産師相談（浦安市）	７名
浦安市社会福祉協議会評議員	１名	市川市 STD 推進協議会委員	１名
市川市健康福祉センター母子保健推進協議委員	１名	ファミリーサポート基礎研修講師（社会福祉協議会）	４名
寄り添い型支援事業（千葉県）	２名		

５．健康教育・講演活動（生と性の健康教育）（期間 2020 年１月～12 月）

対象	回数	講師（実数）
小学生	17 回	５名
中学生	６回	１名
高校生	０回	０名
特別支援学校	１回	１名
保護者・教員・専門学生・専門家	９回	４名
その他（市事業・公民館・幼稚園等）	４回	２名

６．地区助産師活動
・7 月～　月 2 回 zoom による子育てオンラインお話会開始　3 名で担当
・11 月 16～23 日　「浦安市子育てメッセ」に YouTube 動画で参加　５名参加

７．その他

令和２年度　　第２地区　　活動報告　　№.２

定例会開催：７回

目標	事業	結果および評価
1.　会員同士の結束を図り、知識技術の向上を目指す	1）定例会開催	・2 か月毎の定例会と 1 回の臨時地区会の開催。コロナ感染状況をふまえ zoom 併用にて開催 ・定例会は審議事項の検討と行政への協力事業の情報共有(症例検討)と伝達講習を行う。
	2）研修会開催	・今年度は開催できなかった。
	3）地区会員の定例会への参加を働きかける	・定例会開催前に会員に参加をメールおよび電話で呼びかけた。 ・欠席者にメールや郵送で議事録送付。 ・2 地区会員の把握、地区会費の徴収は２回にわたり行った。
	4）会員の増員	・会員増員のため、非会員へ助産師会の活動案内をした。
2.　地域･所属を超えたネットワークの構築	1）社会福祉協議会との連携 (1)研修会講師として参加	・社会福祉協議会の評議員として助産師会から 1 名参加している。 ・ファミリーサポート基礎研修会講師として参加。
	2）　他職種との交流・連携を深める。 (1)STD 対策推進協議会 (2)母子保健推進協議会	・公民館子育て事業・特別支援に関する性教育の講師として参加。 ・市川市 STD 推進協議会に委員として 1 名参加。 ・母子保健推進協議会に委員として 1 名参加。
3.　地域に密着した母子保健活動を積極的に行う	1）　地域子育て支援事業への協力	・浦安子育てメッセの事業参加。 ・子育ての悩みや相談に乗り、自立した子育てができるよう支援した。(コロナ禍のため開催回数が減り 4 か所の子育て広場に４名参加、zoom によるオンライン相談会開催)
	2)行政の母子保健事業に協力 (1)浦安市こども家庭支援センター	・浦安市養育支援訪問に関する事業提携継続
	(2)浦安市健康増進課	・助産師相談（浦安市）(コロナ禍のため開催回数が減り４名参加)
	(3)寄り添い型支援事業	・寄り添い型支援事業（依頼 1 件あり）
	3)健康教育・講演会への講師派遣	・研修会や情報交換に個人で参加した。 ・健康教育の質の向上と活動の充実をした。
	(1)健康教育 (2)子育て支援講座	・講師ができる人材育成を行った（現在５名活動。） ・常に新しい情報の取得と積極的に研修会に参加。
4. 本部・千葉県・助産師会事業への参加協力	1)「助産師の電話無料相談」に協力	・電話相談員として 5 名参加した。
	2）研修会の参加協力	・部会を超えた研修会へ参加した。
	3）国際助産師の日の参加協力	・今年度は開催中止のため参加できなかった。
5.災害に備える	1）浦安市との災害協定継続	・連絡網の見直しと会員の安否確認をした。県の災害対策からの連絡共有をした。
	2）災害時迅速な対応への準備	
	3）他職種との防災連携	・社会福祉協議会との連携継続。

令和２年度　　第３地区　　活動報告　　№.１

地区名：船橋地区　　地区部会長：田村陽子　　会員数：36 名

１．定例会開催　　１回　他メールにて適宜連絡

２．研修会
　開催なし

３．行政および関連団体等の会議参加状況は 48 ページを参照。

４．行政への協力事業

内容	協力人数	内容	協力人数
1.6 歳児・3 歳児健診	10 名	4 か月健康相談（鎌ヶ谷市）	2 名
健診後電話フォロー	6 名		
(パパママ教室）動画作成	3 名	3 歳児健診（鎌ヶ谷市）	2 名
妊産婦・新生児訪問	13 名	妊産婦・新生児訪問（鎌ヶ谷市）	2 名
養育支援訪問事業	6 名	ウエルカムベビーアドバイス（鎌ヶ谷市）	2 名

５．健康教育・講演活動（生と性の健康教育）（期間 2020 年 1 月～12 月）

対象	回数	講師（実数）
中学生	2 回	2 名

６．地区助産師活動
　11 月 1 日～8 日「子育て応援メッセ 2020in ふなばし」Web 開催　参加
　『妊娠中・子育て中のお母様方へ　助産師からのメッセージ』動画作成

７．その他
　船橋市より「新型コロナウイルスに感染した妊婦への寄り添い型支援事業」の依頼があった。

令和２年度　　第３地区　　活動報告　　№.２

定例会開催：１回

目標	事業	結果および評価
１．会員同士の結束を図り、お互いの知識や技術の向上を図る。	1）定例会の開催 2）研修会の開催 3)地区会員増加への取り組み	・zoom 開催で定例会＆新年会を 1 回実施。連絡事項はメールで伝えた。今年度は子育て委員会としての活動があったため、役員会は対面と zoom で適宜開催した。今後も zoom 等を活用して、定例会や研修会を実現してゆく。 ・地区便りを発行し、職場の助産師等にも配布した。今後も助産師会をアピールする機会を設けていきたい。又、魅力ある助産師会をめざして話し合いの機会を増やしていく。
２．地域に根ざした母子保健活動を行う。	1）行政の母子保健事業に協力 2）健康教育・講演会に講師を派遣し、地域の子育て支援に協力	・例年とは全く異なる事業体制となってしまい戸惑いが大きい中、臨機応変に協力した。コロナ禍で、行政の母子保健事業での負担が増加し、委託助産師への期待が大きくなっている事をふまえ、今後も協力してゆく。 ・開催中止が続いたが、動画の作成やリモート開催参加を体験したので、今後もその体験を生かし、協力してゆく。 ・地区内の講師育成にも取り組む。
３．災害に備える	1)災害時に落ち着いて行動出来る体制作り。 2)災害時の協力に基いて活動する際には、地区部会全体で協力。	・防災訓練時の安否確認にて 36 名中、30 名の返信があった。 ・災害支援時協力員の登録 9 名。保険加入への声掛けを引き続き行ってゆく。 ・今後も地区災害対策委員中心に体制を整備してゆく。
４．千葉県助産師会が主催する事業への参加・協力を行う。	1)「助産師の電話無料相談」に協力 2)研修への参加 3)国際助産師の日のイベントに協力 4)県の産後ケア事業に協力	・子育て委員会として 1 年間活動した。事例報告会＆研修会を 1 回開催。電話相談において大きなトラブルはなかった。 次年度の電話相談協力員が 50 名に増加。 地区の協力員も 3 名増えた。 ・研修への参加を呼びかけ、県助産師会の研修の活性化に向けて、協力してゆく。 ・国際助産師の日のイベントは開催されなかった。今後国際助産師の日の地域でのイベントについて検討する。

令和２年度　　第４地区　　活動報告　　№１

地区名：習志野・八千代・鎌ケ谷地区　地区部会長：大谷理恵　　会員数：33 名

１．定例会開催　　年７　回

２．研修会

開催日	内容	講師
３月	周産期の栄養	大谷理恵氏

３．行政および関連団体等の会議参加状況は 48 ページを参照

４．行政への協力事業

内容	協力人数	内容	協力人数
八千代市プレママクラス	２名	八千代市産後ケア	７名
千葉県新型コロナ寄り添い型支援	２名		

５．健康教育・講演活動（生と性の健康教育）（期間 2020 年１月～12 月）

対象	回数	講師（実数）
就学前	２回	５名
小学校	26 回	５名
中学校	10 回	２名
PTA・保護者	14 回	２名
社会人	４回	１名
公民館・女性センター	３回	１名
	回	名

６．地区助産師活動

スタジオアリス　マタニティセミナー

７．その他

八千代市からの依頼　母親学級動画作成協力

令和２年度　　第４地区　　活動報告　№.２

定例会開催：７回

目標	事業	結果および評価
１.会員同士の交流を図り、お互いの知識や技術の向上に努める	1)定例会の開催 2)地区研修会の開催 3)地区会員の増員に取り組む 4)地域周産期センターと交流	・定例会は１月までに５回、うち２回をオンラインにて行う。今後もオンラインで開催予定。 ・新型コロナにて集まれず開催未定。 ・先輩会員との交流を通して地区会員増加のための声掛け予定であったが新型コロナのため中止となる。 ・新型コロナのため開催中止となり、交流会は行えなかった。
２．地域に密着した母子保健活動・健康支援活動を行う	1)子育て支援 2)八千代市プレママ教室開催 3)行政の事業に協力	・会員各自が各々地域にて活動を行う。 ・１・２月は開催。その後中止となる。八千代市の依頼で妊婦体操の動画の作成に協力する。八千代市役所のホームページからリンクし、YouTubeにて配信される。 ・公民館・小中学校から依頼の健康講座を実施。 ・八千代市思春期保健ネットワーク会議に文書にて参加、活動報告を行う。 ・八千代市産後ケアのアウトリーチ型に協力令和２年度９件訪問を行う。
３．健康教育活動の充実	1)「生と性の健康講座」開催	・感染対策について話し合い、教材の消毒、マスク着用等感染防止に努めた。 ・同じ講師料で複数回の講座を開催し密にならないよう工夫した。 ・講座前後、担当者で話し合いを行う。定期的に講座内容の検討会を行った。 ・講師希望者は、講座のサポーターとして参加しながら研鑽中。 ・教材の汚染や破損が増加。修繕・整備随時実施。
４．災害に備える体制を整える	1)災害時速やかに行動できるための準備 2)災害時、行政と連携し支援活動協力ができる体制づくり	・連絡方法の見直しを行った。 ・震度６強クラスの地震などシミュレーション訓練を行った。 ・協力員として10名登録している。 ・習志野市との防災協定のための防災訓練は中止となった。
５．千葉県助産師会の事業への参加	1)助産師による電話無料相談運営に協力 2)スタジオアリスのマタニティセミナー協力	・相談員として６名協力。講座開催時、電話無料相談事業の紹介やフライヤーの配布を行った。 ・前半は中止されていたが、夏から再開、セミナー、ヨガを６回行う。

令和２年度　　第５地区　　活動報告　　№.１

地区名：印旛地区（白井・八街・富里・成田・印西・四街道・佐倉・栄・酒々井）
地区部会長：佐々木明代　　会員数：49 名

１．定例会開催　　年４回

２．研修会

開催日	内容	講師
３月６日	生と性の健康教育特別委員会より最新情報の提供 （Web 開催）	地区委員　狛千恵子氏

３．行政および関連団体等の会議参加状況は 48 ページを参照。

４．行政への協力事業

内容	協力人数	内容	協力人数
佐倉市産後ケア事業	４名	栄町産後ケア事業・訪問事業	２名
四街道市産後ケア事業	３名	八街市マタニティ教室・訪問事業	１名
成田市産後ケア事業	８名	酒々井町マタニティ教室	２名
成田市こんにちは赤ちゃん事業	６名	白井市母親教室	１名
印西市産後ケア事業	１名	睦沢町・長生村母親教室	１名
四街道市訪問事業・乳児健診・マタニティケア	１名	富里市訪問事業・母親教室・産前&産後ママヨーガ・ベビーヨーガ	２名
八街市産後ケア事業	３名	長南町（産後のママ and ベビーマッサージ教室）	１名
市川市（産後のママのためのボディケア教室）	１名		

５．健康教育・講演活動（生と性の健康教育）（期間 2020 年１月～12 月）

対象	回数	講師（実数）
小学校	10 回	10 名
中学校	１回	１名

６．地区助産師活動

７．その他

令和２年度　第５地区　活動報告　№.２

定例会開催：4 回

目標	事業	結果および評価
１．会員の交流を図り知識・技術の向上に努める	1）定例会の開催 2）地区研修会の充実 3）会員の増加 4）日本助産師会会員として会に協力 5）千葉県助産師会会員として協力	・7 月 10 月 2 月 3 月に定例会を開催。 ・研修会は 3 月にオンラインで実施。 ・地区内の潜在助産師へ呼びかけ入会案内 1 名の入会あり。 ・コロナ渦中のおりイベント自粛のため開催なし。
２．地域に密着した保健活動を行う	1）保健センター及び関係機関の事業へ協力 2）地域の保健福祉事業への協力 3）こんにちは赤ちゃん事業	・産後訪問事業はコロナ対策をしてサポート実施中。 ・市の母親学級はコロナ自粛のため中止期間もあったが現在は実施している市町村あり。 成田市健康福祉祭りは中止。 ・佐倉市・四街道市・成田市産後ケア事業に協力。 ・八街市から産後ケア事業の依頼あり。10 月より開始。 ・印西市・酒々井町から産後ケア事業の依頼あり検討中。
３．思春期講話の充実を図る	1）講師のスキルアップ 2）認定者の育成 3）講演会の講師派遣	・コロナ自粛のため性教育講演依頼激減。 実施は１校のみ。 ・「生と性の健康教育特別委員会ニュースレター」で情報共有。
４．千葉県助産師会事業への参加・協力を行う	1）電話相談協力員としての協力 2）千葉県助産師会研修会・イベントへの参加	・電話相談員としての協力。 ・「国際助産師の日」の中止。 ・スタジオアリス マタニティセミナーは、一時中止していたが再開し協力。

令和２年度　　第６地区　　活動報告　　№.１

地区名：香取・海匝・山武地区　　地区部会長：石毛光代　　会員数：24 名

１．定例会開催　　２回（リモート会議）

２．研修会
　なし

３．行政および関連団体等の会議参加状況は 48 ページを参照。

４．行政への協力事業

内容	協力人数	内容	協力人数
新生児訪問	5 名		名

５．健康教育・講演活動（生と性の健康教育）（期間 2020 年１月～12 月）

対象	回数	講師（実数）
小学生	10 回	３名
中学生	１回	１名
高校生	１回	１名
PTA 他（成人）	２回	１名

６．地区助産師活動

７．その他

令和２年度　　第６地区　　活動報告　　№.２

定例会開催：２回

目標	事業	結果および評価
１．会員同士の交流を図り、知識や技術の向上に努める	1) 定例会の開催 2) 地区研修会の開催 3) 地区会員増員並びに、会員の地区会参加への働きかけ 4) 健康教育の講師育成	緊急事態宣言後、定例会ならびに地区研修会を中止していたが、12 月・1 月にリモートにて会議を開催した。機器の扱いに苦心する会員達もあり、IT 活用の難しさを実感した。しかし、広域な当地区だからこそ移動時間不要のリモート会議は会員同士の意思疎通を図れる重要なツールである。スムーズに会議等できるよう工夫していく。連絡事項などは都度メール配信し意見の返信を受けた。
２．地域に密着した母子保健活動を行い地域との連携に努める	1)行政の母子保健事業への協力 2)城西国際大学祭に助産師会として参加 3) 健康教育・講演会への講師派遣	・緊急事態宣言解除後、感染対策のもと新生児訪問を再開した市町村への協力を再開している。 ・大学祭開催中止の為、参加なし。 ・新生児訪問同様、緊急事態宣言解除後に健康教育・講演の依頼を受け、活動再開した会員あり。
３．県助産師会業務への参加・協力を行う	1) 電話相談事業に協力 2) スタジオアリス マタニティセミナー協力 3)「国際助産師の日」のつどいの開催協力	・4 名が電話相談員として協力中。 ・緊急事態宣言解除後、7 月より依頼が再開された。参加者の人数制限や席を離すなどの対策実施。 ・来年度へ延期の予定としたが、コロナ禍のため従来の方法での開催は難しいとの見解。当地区主催を白紙にした。
４．災害対策を整える	1) 災害時の対応について検討 2) 災害訓練の参加	・6/25 当地区内震度 5 弱の地震発生時、地区会員へグループ LINE での安否確認。15 名からの返信あり。反省としてグループに入っていない会員へメールでの配信を忘れてしまった。 ・10/12 災害訓練参加。地区会員へは LINE とメールで発信し安否確認・情報収集実施。

令和２年度　　第７地区　　活動報告　　№.１

地区名：千葉地区　　地区部会長：菅谷厚子　　会員数：　46　名

１．定例会開催　　年 12 回

２．研修会

開催日	内容	講師
10 月 6 日	「母子の健康を育むための食」	畔上久美氏
12 月 18 日	「周産期メンタルヘルスに特化した訪問看護から 見える、医療、行政、制度との隙間」	山岸由紀子氏
2 月 18 日	「自然環境・体験と脳の発達～胎児期から子どもの健康を育む」	中村俊彦氏
3 月 2 日	「不妊治療中の女性のストレス」	森明子氏
全 8 回	「不妊・不育・いのちの温🩹line」事業 zoom 学習会	川島広江氏
定例会	・「エビデンスに基づく助産ガイドライン 2020」抄読会 ・7 月 7 日　症例検討（メンタルヘルス）・事例報告	

３．行政および関連団体等の会議参加状況は 48 ページを参照。

４．行政への協力事業

内容	協力人数	内容	協力人数
土日両親学級 15 回	13 名	不妊専門相談（面談）　15 回	1 名
母親＆父親学級：電話相談 11 回	8 名	不妊専門相談（電話）　34 回	3 名
母親＆父親学級　32 回	12 名	思春期保健事業	4 名
女性の健康相談　36 回	6 名	新生児・妊産婦訪問指導員	8 名
母乳教室　27 回	11 名	産後ケア事業（委託助産院）	16 名

５．健康教育・講演活動（生と性の健康教育）（期間 2020 年 1 月～12 月）

対象	回数	講師（実数）
小学校	15 回	4 名
中学校	10 回	1 名
高等学校	2 回	1 名
特別支援学校（中等部）	1 回	1 名
大学・専門学校	3 回	1 名
保護者・社会人・他	18 回	2 名

６．地区助産師活動

・温🩹line 講座「親になるクラス」（3 テーマ）オンライン講座無料配信 5 月～3 月（12 回）

・いのちの講座　親子で学ぶ講座Ⅰ親子で学ぶ講座Ⅱ大人が学ぶ講座

・木村病院との連携：協力員 12 名（カンファレンス 10 月～）・産科 2 施設の産褥訪問：8 名

７．その他

・一般社団法人千葉市助産師会設立　8 月 7 日

令和２年度　　第７地区　　活動報告　　№.２

定例会開催：12 回

目標	事業	結果および評価
１．市民に母子保健知識の普及・生命の大切さの普及・女性の健康支援を行う	1)　土日の両親学級開催 （千葉市委託事業） 2)　不妊・不育・いのちの温🩵line　電話無料相談 （千葉市委託事業） 3)　温🩵line 講座“親になるクラス”オンライン配信 4)　いのちの講座開催 5)千葉市母子保健事業協力 6)　施設との連携 7）千葉市のイベント参加 8)　県助産師会事業協力	・15 回開催（第 1 回：12 回　第 2 回：3 回） 今年度より第 1 回（妊娠・出産編）のフォローアップ講座として産後編を開始した。産後編のテキストを作成し活用した。3～5 名/回で担当。新型コロナウイルス感染予防対策として定員を 30 組から 18 組に減らして開催した。 ・7 月から開始。全 34 回の電話相談を 3 名で担当した。 ・千葉市在住の妊婦・パートナー向けに 3 つのテーマでオンライン講座を配信した。全 12 回 ・親子で学ぶ講座Ⅰ（6,8,10,3 月）親子で学ぶ講座Ⅱ（7,11,2 月）大人が学ぶ講座（5,9,12 月） ・各事業へ助産師を推薦した。（母親&父親学級、母乳教室、女性の健康相談、不妊専門相談、思春期保健事業）緊急事態宣言に伴い一部集団指導が中止となり電話相談へ変更となった。 ・産科 2 施設と連携し、産褥訪問を行う（8 名） ・精神科 1 施設と連携し、要請に応える（12 名） カンファレンスを行い情報交換を行った。 ・12/10 男女共同参画センター市民企画講座を開催し、学校関係者等の参加があった(8 名担当) ・電話無料相談協力員、スタジオアリス　マタニティセミナーへ協力した。
２．助産師の知識・技術を高める	1）研修会の開催 2）事例検討会・報告会	・千葉市母子保健研修事業業務委託での研修会を 3 回実施した。・「不妊・不育・いのちの温🩵line」事業 zoom 学習会を開催した。・定例会時に事例報告や症例検討を実施し、会員の知識が深まった。
３．組織を強化し、運営を円滑に行う	1)運営に関する会議 2)他部門との連携 3)助産師活動の広報の充実 4)会員の増加を目指す 5)災害対策	・年 1 回総会を開催。総会で承認を得て一般社団法人千葉市助産師会を設立した。毎月定例会を開催し、会員全員へ配信・発送した。 ・行政関連の委員を受諾し会議に出席した。 ・リーフレットを作成・配布し市民に情報提供をした。・非会員に入会案内をした。 ・千葉市との連携を図る。

令和２年度　第９地区　活動報告　№１

地区名：市原・君津・安房地区　　地区部会長：根岸雄子　　会員数：30 名

１．定例会開催　令和２年　会場２回　　ズーム　２回　（予定３月　含む）

２．研修会

開催日	内容	講師
10 月 3 日	2019 自然災害報告と災害対策への意識づけに向けて	吉田広美氏

３．行政および関連団体等の会議参加状況は 48 ページを参照。

４．行政への協力事業

内容	協力人数	内容	協力人数
新生児訪問	６名	母親・パパママ教室	５名
乳幼児健診・相談	３名	予防接種	０名
子育て支援	１名	ベビーマッサージ	２名
産後ケア	６名	健康福祉フェア協力	中止
いちはら健俾まちづくりプラン	１名		

５．健康教育・講演活動（生と性の健康教育）（期間 2020 年１月～12 月）

対象	回数	講師（実数）
小学校	８回	５名
中学校	６回	３名
高　校	１回	１名
大　学	０回	０名
PTA・保護者	０回	０名
社会人	０回	０名

６．地区助産師活動

スタジオアリス　マタニティセミナーは時間短縮により講話中心の内容に変更。
母子保健推進委員会・周産期連絡会議・健康まちづくりプラン等９月より順次に開催傾向。
全般的に新型コロナウイルス感染拡大防止・緊急事態宣言を受け、会場の休場、人数制限により縮小や消毒の徹底、マスクの着用を義務づけての活動となっている。

７．その他

令和２年度　母子保健奨励賞　根岸雄子氏受賞

令和２年度　　第９地区　　活動報告　　№.２

定例会開催：４回

目標	事業	結果および評価
１．会員同士の交流を図り、お互いの知識や技術の向上に努める	1）定例会、研修会を開催する 2）会員増加を図る 3）各会員の活動状況を紹介し理解する	・新型コロナ感染拡大防止、緊急事態宣言の影響を受けた。総会は紙面、ライン等による表決参加とした。会員への通達に支障がないよう、役員間の連絡を密にし、書面、メール、ライン等の円滑な活用に努めた。 ・災害支援対策の意識を高めるため、地域保健師を交えて、2019 年自然災害の地区活動報告の抄読会を開催。 ・新会員３名入会。 ・会場の確保ができず、対面が困難なのもありズーム開催を取り入れた。参加しやすい時間帯や環境の設定が今後の課題。
２．地域に密着した母子保健活動・健康支援活動を行う	1）各地区の母子保健事業に協力する 2）各地域の産後ケア事業連絡協議会と連携・協力する 3）健康教育活動に協力する 4）各地域の市民祭りに参加協力する 5）各地域の母子保健推進や周産期の委員を務める	・産後ケアの拡充に向けて、君津・袖ヶ浦・木更津・富津市、館山市地域の母子保健・子育て支援担当者との情報交換、協力体制、契約に向け臨めた。 ・健康教育講師派遣では、県の様式で関係機関から文書で講師派遣の分担と把握ができた。 ・新型コロナの影響を受け市原・木更津健康祭り中止。 ・新型コロナウイルスの影響にて会議等の延期。
３．支援事業への参加	1）会員の協力を得て事業への参加・協力を行う	・助産師の電話無料相談（ミッドワイフ千葉）に協力と２名の相談員が加わる。
４．災害に備え、体制を整える	1）災害時迅速に対応できる災害対策づくり	・ライン・E メール・電話等連絡方法の活用。 ・最低５名の災害対策協力員確保し、今後も増員を目指す。 ・災害時迅速な安否確認。 ・他地区での災害イベントに参加、防災意識等再認識を目指す。

４．専門部会報告

１）助産所部会

２）保健指導部会

３）勤務助産師部会

令和２年度　助産所部会　活動報告

部会長　小柴和子
委　員　白井祐子　米丸充咲

１．部会開催状況

開催日	議題	内容	出席委員名
5 月 21 日（木） Zoom 5 月 28 日（木） Zoom	１．現在の活動状況 ２．感染防止対策 ３．不足している物 ４．困ったこと ５．助産所評価訪問 ６．連絡方法 ７．その他	・コロナ禍で訪問・面会は中止、オンラインヨガの開催、電話相談 ・マスク、手洗い、手指消毒など ・アルコール、手袋、マスク不足 ・仕事が減少、収入減 ・開業助産所 3 か所予定 ・グループライン作成 ・議事次第の準備	小柴、根岸、巻田、菅谷、的場、白井、進藤 米丸
7 月 6 日（木） Zoom 千葉市民会館	１．コロナ慰労金 ２．CLoCMip ３．分娩時防護策 ４．安全評価訪問 ５．勉強会について	・慰労金 5 万円の解釈及び説明 ・2 名更新予定 ・マスク、フェイスシールドなど ・開業助産所 3 か所予定 ・尿漏れ予防研修などを予定	武田、小柴、白井、進藤、根岸、小林、戸田、的場、米丸
8 月 27 日（木） Zoom	１．コロナ慰労金 ２．CLoCMip ３．安全評価訪問 ４．年間日程 ５．その他	・慰労金 5 万円、感染防止対策助成金 70 万円について ・アドバンス助産師更新時の上司面接について ・７月から 10 月にかけて３か所の評価訪問を勤務助産師部会、保健指導部会と協力して行った。 ・期日までに安全管理評価を提出 ・1/21 までに年間分娩数提出 ・不安を抱える妊婦への分娩前ウイルス検査について	武田、小柴、進藤、的場、正林、米丸
11 月 19 日（木） Zoom	１．助成金申請について ２．安全管理評価と各自評価の感想 ３．役員の輪番制 ４．データ収集システムの利用	・よろず支援拠点相田悟先生による「オンライン対応可能なプロとなるため」の研修。感染防止対策助成金の申込み方法についてのレクチャー。YouTube 動画を作成してもらい、情報を共有した。保健指導部会より 8 名が Zoom 参加。 ・リーフレットが整っていた。新しい項目が抜けていた。 ・今後 5 年間輪番制の提案	小柴、米丸、田中、佐藤、戸田、白井、進藤
1 月 21 日（木） Zoom	１．近況報告書 ２．今年度反省 ３．来年度目標 ４．輪番制について ５．来年度日程	・コロナ禍で仕事厳しかった ・アドバンス助産師の更新ができなかった。費用、時間面で困難 ・嘱託医と連携を図る。 ・今後 5 年程度の役員を予め決めておくことを提案 ・奇数月第 3 木曜日 12 時 30 分～	武田、小柴、進藤、的場、戸田、根岸、小林、菅谷、米丸

２．令和２年度　部会目標に対する結果・評価

目標	内容	結果・評価
１．助産所安全管理評価を継続し、助産業務ガイドラインを尊守した安全な助産所運営を行う。	１．各助産所の自己評価のもと、会員及び安全対策委員で協力し、気づきを共用し安全管理の意義・質を高める。 ２．３年おきに３件（みらい・ゆい・あびこ助産院）の訪問・評価を行う。 ３．各助産所は助産所業務ガイドラインを遵守する。	・３か所の評価訪問を各２名（ゆい助産所は１名）で実施。自己評価表の提出が行われた。他助産所の業務を知る機会となり安全の配慮がされていると確認できた。各種、安全マニュアルが作成されている所とそうでない所があった。課題として検尿・血糖検査マニュアル作成がされていない所が多かった。 ・ガイドラインは順守されていたが、できていない所が明確になり、「改めて見直す機会になった」という意見あり。又、情報交換もできた。
２．助産所運営の資質向上に向けた努力と、助産所の維持・発展を目指す。	１．年４ポイント相当の安全管理研修を必ず受講する。 ２．定例会に年２回は出席と会員同士の情報交換・交流を図る。 ３．母体救急、スキルアップ講習等を受け、日常的に演習し活かす努力をする。 ４．アドバンス助産師・産後ケア実務助産師研修修了の推進。 ５．助産師会 HP への助産所ケア等の活動紹介の掲載。	・定例会には決まった人のみ参加となっている。会としての顔の見える関係性が今後の課題。定例会にてグッドジョブ報告にて情報共有を行い、今後の安全向上に役立った。 感染拡大予防に取り組んだ。 ・コロナ禍で NCPR の認定・安全管理研修会が殆ど中止になったが、できる所には参加した。 ・アドバンス助産師の更新２名。 ・助産師会 HP への掲載は出来ていないので、次回の課題。
３．事故事例、ヒヤリハット・グッドジョブ事例を通し母子の安全に努める。	１．全会員の IT 利用により転院・搬送報告書等を速やかに行う。 ２．個人情報を守り、分娩件数統計に努める。 ３．定例会時には個人情報を尊守し、報告フロー、ヒヤリハット・グッドジョブ事例の報告・収集し、検証・検討会を行う。 ４．安全対策委員会と協力し、事故を防ぐ対策を強化する。 ５．他部会と交流し、情報共有・連携を深める。	・全国助産所分娩基本データの報告は、ほぼできている。 ・分娩件数統計と実績報告ができた。 ・事故事例報告１件あり、事故調査報告書を用いて報告した。 ・感染拡大予防について情報を共有し、クラスターとならないよう、分娩・ケア・出張・来所の感染予防対策を強化した。 ・安全対策委員と交流できた。
４．地域の協力医療機関等との連携・信頼関係を深める。	１．医療法改正に基づく周産期救急の医療機関の確保ができる。 ２．健診依頼・報告を随時行う等、お互いに協力・信頼できる環境を作る。 ３．地域産婦人科医会の研修等に参加し、懇親を深める。	・嘱託医との連携は現状維持。 ・新たな嘱託医確保の難しさは変わらず、出張で分娩取扱い停止が１か所、新規開業１か所。 ・少子・高齢初産によるリスクの高まりと共に出産件数が減少している。 ・帝京大学ちば総合医療センターの勉強会に参加した。

３．次年度（令和３年度）課題

１）助産所業務のガイドラインの尊守のため出張を含めた安全管理指針の作成。

２）嘱託医との連携と信頼関係を築くため研修会の開催を行う。

令和２年度　保健指導部会　活動報告

部会長　來田美鈴
委　員　渡辺佐智子・河添淳子・小椋梨絵

１．部会開催状況

開催日	議題	内容	出席委員名
5 月 3 日（日）	１．新型コロナ感染対策について	・感染拡大下での保健指導部会委員の活動状況アンケートについて ・具体的感染対策の情報提供 ・情報交換ツールの作成　　など	來田・渡辺・河添・小椋
5 月 17 日（日）	１．新型コロナ感染対策について	・コロナ禍でケアを行う時の承諾書について ・乳腺炎対応について ・衛生用品の支援について ・作成資料の発信方法について ・活動状況アンケートについてなど	來田・渡辺・河添・小椋
6 月 14 日（日）	１．新型コロナ感染対策について	・アンケート集計について ・アンケートから見えてきた問題点への対策について（情報提供・衛生用品の確保・医療との連携など）	來田・渡辺・河添・小椋
6 月 28 日（日）	１．新型コロナ感染対策について	・情報交換､情報発信ツールの立ち上げについて	來田・渡辺・河添・小椋
7 月 10 日（金）	１．『感染対策情報交換会』への参加	・安全対策委員会主催の新型コロナ感染対策情報交換へ参加	來田・渡辺・小椋
7 月 19 日（日）	１．研修会開催について ２．アンケート集計報告について	・安全対策委員会､教育委員会､保健指導部会合同開催研修会開催内容の検討（感染症専門ＮＳ講義と吉岡助産院取り組み紹介など） ・アンケート集計結果報告について	來田・渡辺・河添・小椋
9 月 6 日（日）	１．研修会開催について ２．感染対策保健指導部会からの要望について	・研修会準備状況について ・感染対策保健指導部会からの要望まとめ	來田・渡辺・河添・小椋
9 月 27 日（日）	１．『助産師の活動における新型コロナ感染対策講座』へ参加	・安全対策委員会､教育委員会､保健指導部会合同開催の研修会に参加	來田・渡辺・河添・小椋
10 月 11 日(日)	１.9 月 27 日研修会振り返り	・研修会感想 ・研修会内容まとめと会員への感染対策情報提供	來田・渡辺・河添・小椋
2021 年 1 月 24 日（日）	１．最新感染対策案の作成について ２．次年度計画	・最新の新型コロナ感染対策情報提供について ・コロナ禍での活動紹介を兼ねた交流会の開催について	來田・渡辺・河添・小椋

２．令和２年度　部会目標に対する結果・評価

目標	内容	結果・評価
１．会員ネットワークを推進する	１）本部と千葉県助産師会の連携のため、本部の保健指導部会会合に出席し、情報を会員メールや地区長を通して発信する。 ２）交流会を開催し、地区を越えて、顔の見える関係を築き、紹介しやすい環境を作る。 ３）勤務部会及び助産所部会と連携し協力し合う環境を作る。	１）必要な情報は、随時、メーリングリストや理事メールにて配信された。 ２）今年度は感染対策上、交流会は実施していない。 ３）安全対策委員会・教育委員会と合同で、研修会を開催した。
２．地域と施設の連携を推進し、安定した母子支援を継続する	１）地域の母子支援において、県や市との連携が円滑に行われるようにする。 ２）個々がスキルアップのための研修に参加する。 ３）国際助産師の日、助産師の電話無料相談事業に参加する。 ４）健康教育の依頼に対し、各地区長を通し講師を派遣する。 ５）産後ケア事業について情報収集する。	１）感染対策に必要な物品を県や市から支給してもらった。 ２）個々で、多くはオンラインでの研修へ参加した。 ３）国際助産師の日は中止、助産師の電話無料相談は、ほぼ例年通りの協力があった。 ４）コロナ禍で、例年より依頼数は少なかったが、実施においては、新しい形での開催ができた。 ５）実施していない。
３．安全対策管理を周知、徹底する	１）「千葉県助産師会保健指導出張専門者向け安全管理指針」を周知し、開業助産所の安全管理指針の作成に役立て、安全対策に努める。 ２）開業助産師の保険加入の徹底。 ３）ヒヤリハット事例の共有、分析、対策に努める。 ４）母乳育児支援に関する安全評価の自己評価を行い、できていないところは改善できるよう働きかける。	１）周知活動が不十分だった。開業助産所の安全管理指針の作成は次年度へ持ち越した。 ２）保険加入を推進した。 ３）ヒヤリハットの報告が１件あった。 ４）例年通り実施したが、感染対策における評価については、更なる検討が必要。

３．次年度（令和３年度）課題

１）　新しい生活様式に対応した地域母子支援のあり方を検討する

２）　開業助産所の安全管理指針の作成

令和２年度　勤務助産師部会　活動報告

部会長　清水清美
委　員　市川智子・小野寺由美子・岸本優子・大久保洋子

１．部会開催状況

開催日	議題	内容	出席委員名
6 月 3 日(水) メール会議	１．研修会議および活動計画の確認 ２．HP専門部会活動作成	・本年度の研修会再計画 ・HP用　専門部会活動作成	清水・市川・小野寺
6 月 12 日(金) メール会議	１．研修会チラシ作成	・研修会チラシ ・地区理事へ配信 ・日本助産評価機構確認 ・「骨盤ケア（産前・産後)」を対面研修、「メンタルヘルスケア」をリモート研修として企画	清水・市川・小野寺・岸本
7 月 13 日(月)	１．助産所評価訪問	・あびこ助産院・みらい助産院助産所評価訪問	清水
8 月 1 日（土） メール会議	１．研修会「骨盤ケア（妊娠期・産褥期)」について	・covid19 感染拡大のため「骨盤ケア（妊娠期・産褥期)」は対面研修を延期	清水・岸本
8 月 22 日(土) リモート研修	１．研修会「メンタルヘルスケア」リモート開催	・講師打ち合わせ ・研修会運営 ・参加証配布	清水・大久保
10 月 8 日（土） リモート会議	１．研修会再計画	・研修会再計画 「NCPR スキルアップ」は中止。「フィジカルアセスメント（妊娠）（代謝)」は対面講義からリモート講義へ変更	清水・市川・小野寺
12 月 20 日(日) リモート研修	１．研修会「フィジカルアセスメント：妊娠期」「フィジカルアセスメント：代謝」リモート開催	・事前講師打ち合わせ ・研修会運営 ・参加証配布	清水・市川・小野寺・岸本・大久保
1 月 23 日（土） リモート研修	第 2 回勤務助産師部会集会参加	テーマ：「勤務部会活動について」勤務助産師部会長、「新型コロナウイルス流行禍における母児支援」グループワーク	清水
1 月 31 日（日） メール会議	1. 研修会の振り返り 2. 今年度の活動報告 3. 次年度の年間活動計画	・活動報告作成 ・次年度活動計画作成	清水・市川・小野寺・岸本・大久保

２．令和２年度　部会目標に対する結果・評価

目標	内容	結果・評価
１．CLoCMiP レベルⅢ認証に向けて、指定研修を勤務助産師部会の会員のニーズに沿って開催する。	１）8 月 22 日、研修会「産前・産後メンタルヘルスケア」をリモート講義にて開催した。 CLoCMiP（WHC 研修）対応 ２）12 月 20 日、研修会「フィジカルアセスメント：妊娠期」「フィジカルアセスメント：代謝」リモート講義にて開催した。CLoCMiP（必須研修）対応	参加者は、会員 17 名、非会員 1 名であった。参加者からは、「具体的にケアの手立てを示していただき、明日からの実践に役立てたいと思う」などの感想を得た。 参加者は、会員 17 名、非会員 2 名であった。前日に zoom の入室練習時間を設けたが、入室できない参加者もいた。講義内容については、「満足」という回答があったものの一部「不満足」との回答があったため、今後は参加者のニーズを把握して講義内容を準備したいと考える。 全てのオンライン開催にあたって、 参加費の徴収は会計担当者に協力いただいた。
２．CLoCMiP レベルⅢ認証とは関連しないが、助産技術の向上に役立つ研修を開催する	１）8 月 22 日、研修会「骨盤ケア（妊娠期・産褥期）」は、対面講義が難しいため、開催を次年度に延期した。	
３．切れ目のない産前・産後支援をする上で、地域における助産師同士の連携を図る目的で交流の機会をつくる	１）7 月 13 日(月)あびこ助産院・みらい助産院、助産所評価訪問	予定していた研修会がすべてリモートで開催したため、交流会の開催は実施することができなかった。

３．次年度（令和３年度）課題

１）CLoCMiP レベルⅢ認証に向けて、指定研修を勤務助産師部会の会員のニーズに沿って開催する。

２）CLoCMiP レベルⅢ認証とは関連しないが、助産技術の向上に役立つ研修を開催する。

３）切れ目のない産前・産後支援をする上で、地域における助産師同士の連携を図る目的で交流の機会をつくる。

５．委員会活動報告

１）教育委員会

２）子育て委員会

３）安全対策委員会

４）災害対策委員会

５）広報委員会

６）将来構想検討委員会

７）細則検討委員会

８）生と性の健康教育特別委員会

令和２年度　教育委員会　活動報告

委員長　東　亜紀
委　員　戸田さおり　宮澤純子　片桐いずみ　玉野あや乃　山田万希子

１．委員会開催状況

開催日	議題	内容	出席委員名
4 月 1 日（水） -4 月 25 日（土）	地区報告会抄録準備	・原稿受取 ・抄録作成、校正 ・印刷、郵送	東
9 月 11 日（金） ZOOM	研修会準備	・活動計画と教育計画確認 ・予算及び役割分担確認 ・9/27 研修会打合せ	東、戸田、宮澤、片桐、山田
9 月 12 日（土） 9 月 17 日（木） 9 月 18 日（金） 9 月 19 日（土） 9 月 20 日（日） LINE Mail	研修会準備	・各講師への連絡 ・公文書、講師紹介、交通費等の依頼及び確認 ・リハーサル準備 ・アンケート及び修了証準備 ・受付及び名簿の確認 ・申し込み金の管理状況	東、戸田、宮澤、片桐、山田
9 月 21 日（月） 9 月 22 日（火） ZOOM	ZOOM リハーサル	・千葉先生 ・吉岡先生	東、戸田、宮澤、片桐、山田
9 月 25 日（金） 9 月 26 日（土） 9 月 27 日（日） LINE Mail	研修会準備	・各講師及び担当者への連絡 ・アンケート及び修了証準備 ・受付及び名簿の確認 ・申し込み金の管理状況 ・9/27 研修会 ZOOM ホスト	東、戸田、宮澤、片桐、山田
10 月 4 日（日） 10 月 8 日（木） LINE Mail	NCPR 実施状況 研修会後サポート	・NCPR 実施状況の確認 ・参加証フォロー	東、宮澤、山田、玉野
12 月 12 日（土） 1 月 30 日（土） LINE Mail	研修会準備	・2/21 研修会打合せ ・研修会名簿作成 ・研修会入金確認 ・担当者への連絡報告相談 ・2021 年度会計報告準備	東、宮澤、山田

２．令和２年度　委員会目標に対する結果・評価

目標	内容	結果・評価
1. 助産師の継続教育としてCloCMiP ラダーⅢ対応の研修会を開催する	1) 体系化した教育計画を立案する 2) 受講者のニーズを満たす研修会内容や研修方法を工夫する 3) 実施した研修会が継続教育に有効であったかを評価する	・緊急事態宣言下で計画したアドバンス助産師の更新に必要な研修会は全て実施できなかった。 ・昨年度より延期していた「母乳栄養支援セミナー」は保健指導部会及び安全対策委員会と共催により「助産師の活動における新型コロナ感染対策講座」として実施した。 ・実施できなかった原因として①新体制の委員会内の調整及びコロナ禍での研修会開催方法の変更がスムーズにいかなかった②実技を伴う研修会の実施が難しかったことが考えられる。次年度の課題としたい。
2. 他部会及び委員会と研修会の年間計画を立案・実施する	1) 専門部会・他委員会と連携しアドバンス助産師更新に必要な教育計画を立案する 2) 教育計画にもとづいた研修会を企画し、運営する 3) 実施した研修会が継続教育に有効であったかを評価する	・年間計画の立案の段階では、他部会及び委員会との連携は可能であった。実施できた研修会は 3 部署の共催で開催できたため、これを基盤に、次年度以降も継続していきたい。 ・次年度以降、他部署との共催研修会では役割分担及び受講料規定等が必要である。
3. 効果的な広報活動を実施する	1) HP に専門部会・他委員会と連携した教育計画を掲載する 2) HP、ML、理事メールを活用し広報する 3) 各研修会のアンケート結果を分析する	・対面研修会を他部署と連携することで実施できた。 ・実施できた研修会終了時のアンケート結果は概ね良好であったことから、研修会内容、方法は妥当であったと評価する。 ・より効果的な広報活動をするには、より細かく担当（チラシ作成、HP 担当）を分担し委員会メンバー全員で活動できるよう整備していく必要がある。

３．次年度（令和３年度）課題

３）　遠隔による委員会メンバー間の連携と支援を拡充する

４）　遠隔及び対面による助産師の継続教育に必要な研修会を開催する

５）　遠隔及び対面による研修会を他部会及び委員会と連携し計画立案する

令和２年度　子育て委員会　活動報告

委員長　川田まゆみ
委　員　田村陽子　佐藤美保子　田邉悦子　鈴木由香子
岩本友恵　黒坂あゆみ　伊藤志保

１．委員会開催状況

開催日	議題	内容	出席委員名
5 月 2 日（土）	１．年間計画 ２．役割分担	・9 月 27 日の研修の中止の決定 ・リマインドメールの実施を決める	全員
６月 21 日（日）	１．事例共有	・リピーターについて	全員
8 月 30 日（日）	１.事例報告会について	・zoom で事例検討会を実施するかどうか	全員
10 月 11 日(日)	１.次年度の電話相談事業の準備について	・次年度協力員の募集について 大潮に募集チラシ同封 メーリングリストで募集	全員
10 月 18 日(日)	１．研修・事例検討をオンラインで実施することとする	・研修・事例検討会実施に向けて役割分担	全員
12 月 5 日（土）	１．研修の準備 ２.令和 3 年度マニュアルの準備に掛かる	・チラシを大潮に同封予定 ・マニュアル作成役割分担	全員
12 月 20 日(日)	１．研修の準備	・役割分担	全員
1 月 10 日（日）	１．次年度担当表作成	・次年度電話相談担当表の作成	田村　田邉 川田
1 月 16 日（日）	１．研修の準備 ２.電話相談マニュアルの準備	・講師も参加して、当日の流れの確認 ・マニュアルの担当者の進み具合確認	全員
2 月１４日(日)	１.研修会＆事例検討会	・いのちの電話から学ぶ 「千葉いのちの電話」研修担当 水谷朋子様・山西愛子様 ・事例報告	全員
2 月	１．次年度に向けて	・次年度の電話相談マニュアルを作成し、協力員に送る ・県内市町村にフライヤー送付	全員
3 月	１．4 地区への引継ぎ	・令和 3 年度担当 4 地区への引継ぎ	川田　田村 伊藤

２．令和２年度　委員会目標に対する結果・評価

目標	内容	結果・評価
１．電話相談事業を円滑に運営する。	１）電話相談事業の運営 （１）相談体制の継続 （２）地区連絡係を通して協力員間のスムーズでタイムリーな情報交換を行う。 ２）次年度の協力員を確保し相談体制を整備する。 （１）広報紙「大潮」を活用し会員に向け発信する。 （２）相談員マニュアルの整備	・今年度４６名の協力員で運営出来た。次年度は 50 人で担当することになった。 ・年間通しての電話相談件数は 1154 件。コロナ禍で人との交流や、外出が制限されるストレスで、1 件の相談時間が長くなるケースも見られた。 ・担当忘れ防止策として、子育て委員が前々日にリマインドメールを送ることで、今年度は、担当忘れはなかった。2 時間遅れで相談を受けた日が、1 日のみあった。 ・リピーターの情報を、地区連絡係を通して、情報発信した。男性からのいたずら電話と思われるもの、精神疾患の既往があり、死にたいと訴える相談等を、情報共有した。 ・マニュアルの紹介先の助産院と、千葉県助産師会のホームページで掲載している助産院が一致していないため、紹介先がない地区があった。次年度から、ホームページに掲載されている助産院に統一する。
２．　地域連携を深める	１）協力助産院や他機関との連携 ２）協力相談員の交流・意見交換	・乳腺炎の兆候があり、高熱があり、出産した病院では見られないと断られた時に、紹介できる助産院の把握ができていれば、よりスムーズだった。 ・子育てがつらいと訴え、相談の内容から地区の保健センターにつなぐケースもあった。 ・芸能人の自殺者が続いた時に、死にたいと訴えられ、どのように対応すればよいか考えさせられたことから、「千葉いのち電話」からの学びの研修を企画した。 ・コロナ禍で、妊娠中の教室がなかったことから、知識不足で繰り返し相談してくるケースもあった。 ・会員同士の交流、意見交換が、今年は持てなかった。次年度は、工夫して意見交換ができるとよい。

３．次年度（令和３年度）課題

１）円滑な電話相談事業システムへの取り組み

２）相談員の質向上に努める

令和２年度　安全対策委員会　活動報告

委員長　小柴和子
委　員　來田美鈴、清水清美、吉岡由紀子、
的場晴美、根岸雄子

１．委員会開催状況

開催日	議題	内容	出席委員名
6 月 7 日（日） 会議 （一部 Zoom）	自己紹介 今年度の計画	・7 月 10 日情報交換会について	小柴、來田 清水、根岸 的場(Zoom)
6 月 15 日（月） 第 1 回委員会 Zoom 会議	1. 7／10 研修会について 2. 委員任期確認 3. 委員連絡先確認 4. 今後の予定 5. 保健指導部会より報告	・役割分担、当日の流れ ・根岸今年度まで、他。 ・ライン、メールでやりとり ・コロナ対策まとめ、年間計画 ・新型コロナに関するアンケートに 50 名弱の回答あり、日本助産師会へ届けてほしい。大まかなガイドライン作成したい。	小柴、來田 清水、的場 根岸、吉岡
7 月 10 日（金） 3 部会安全対策研修会	妊産婦・新生児のケア with 新型コロナ情報交換	・情報交換 ・感染対策グッズ紹介	小柴、來田 清水、的場 根岸、吉岡
7 月 29 日（水） Zoom 会議	今後の研修会について	・研修会に向けての流れを確認	小柴、來田 清水
9 月 11 日（金） Zoom 会議	9 月 27 日研修会打合せ	・研修会の役割分担を確認	小柴、來田 清水、的場 根岸、吉岡
9 月 27 日（日） 研修会	助産師の活動における新型コロナ感染対策講座	・第 1 部　感染管理認定看護師による講義（感染時の臨床症状、指導時の感染対策、陽性妊産婦・乳幼児のケア） ・第 2 部　よしおか助産院での感染対策への取り組み	小柴、來田 清水、的場 根岸、吉岡
10 月 7 日（水） Zoom 会議	9 月研修会の反省と次年度の計画について	・研修内容と次年度の計画を話し合い、案を出し合った。	小柴、來田 清水、的場 根岸、吉岡
10 月 27 日（火） Zoom 会議	次年度の予定 次年度のテーマについての提案	1）記録は順番に、実施・共有する。 2）委員会メンバーは順繰りに交代する。 3）来年度安全管理訪問の確認（場所、訪問予定者） ・電気の無い中でのお産 ・分娩件数が少ない助産院で安全な分娩を維持するには ・安全に助産院を経営するには ・定期的なｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと評価が大事 ・順繰りに事例報告など行う	小柴、來田 清水、的場 根岸、吉岡
11 月 25 日（水） Zoom 会議	次年度の活動について	・研修会 1 回は開催する。 ・安全対策委員会として、産科救急など安全に関するものを避難訓練のように開催し、現在分娩を扱っていない人にも参加を促す。	小柴、來田 清水、的場 根岸、吉岡
R2 年 1 月 13 日（水） Zoom 会議	1. 研修会開催について 2. 安全管理評価 3. 会計処理について 4. 次回会議予定	・7 月 4 日計良産婦人科医師によるコロナ禍での参加救急対応 ・評価表の提出方法と様式の周知 ・Zoom 会議としたため、交通費がかからず赤字にならなかった。 ・2 月 10 日 Zoom 会議	小柴、來田 清水、的場 根岸、吉岡

２．令和２年度　委員会目標に対する結果・評価

目標	内容	結果・評価
１．安全・安心なケアに向け報告と対応を行う。	１）搬送・転院事故事例は検証し再発防止に繋げる。 ２）ヒヤリハット事例は体験報告書（日本助産師会保健指導部会作成）に基づき、各地区からの体験報告書は助産所・保健指導部会長→安全対策委員長の順と報告フローの活用。 ３）産科医療補償制度の提言に基づいた安全性の確保につなげる。	・事故事例報告１件あり。事故調査報告書の事例を用いて、報告した。 ・ヒヤリハット事例の活用はできなかった。コロナ対策として、情報交換会・研修会を行った。
２．　助産所安全管理評価を助産所部会と協働で実施する。	１）「助産所安全管理評価」を実施し、評価・改善点等気づきを共有し、助産所部会長が本部へ報告する。 ２）助産所の嘱託医、協力医療機関との契約更新の有無・保険加入を確認。 ３）分娩取扱い助産所の基準に到達しているかを審議し決定する。安全管理評価を受け、安全管理研修１日以上の受講勧奨、部会出席２回以上（有床助産所は代表者が出来るだけ出席）をクリアしている。	・3 件の訪問・評価を行った。訪問した助産所に関しては、各種、安全マニュアルが作成されている所とそうでない所があり、検尿・血糖検査マニュアル作成がされていない所が多かった。ガイドラインは遵守されていたが、できていない所が明確になり、見直す機会になった。 ・12 月に有床 8 件、無床 4 件の集計と報告。 ・感染防止のため、定例会の中止や Zoom 会議が多かったため、部会出席 2 回以上出来ていない助産所がある。通常の会場を使用したものは 1 回、感染防止対策しながら開催。Zoom 会議参加のための IT スキルアップ講習会が必要。
３．母乳育児支援、産後ケアのあり方が向上できる。	１）３部会・教育委員会との共通事項に合わせて研修会の実施。 ２）「母乳育児支援安全評価」を実施・集計・分析し、結果から評価を報告する。 ３）記録は、日本助産師会「母乳育児記録」を参考にして使用する。 ４）「保健指導出張専門者向け安全管理指針」に基づき、業務を遂行する。 ５）産後ケアアドバイザー、産後ケア実務研修修了者の充実・普及につなげる。	・9 月 27 日に教育委員会と共催で研修会を実施した。もう少し早く開催できると、なお良かった。参加者 43 名。 ・保健指導部会員のみの回収とした。母乳育児支援における安全性を高めるための自己評価を行った。
４．保険加入の推進	１）３部会共に安全を担保するために、保険加入をすすめる。	・損害賠償保険の加入と切り替えについて確認した。

３．次年度（令和３年度）課題

１）COVID-19 禍における感染対策と研修会を行う。

２）出張助産所における安全管理指針について検討し、作成する。

令和２年度　災害対策委員会　活動報告

委員長　　塩見良子
委　員　　金子美有紀　西宮慎子　金子真理恵
地区委員　足立千賀子　田邉悦子　伊東千佳子
　　島森孝恵　　石毛光代　進藤典子

１．委員会開催状況

開催日	議題	内容	出席委員名
6月21日(日)	第 1 回役員会 (ZOOM 開催)	1．今年度の予定 2．九都県市合同防災訓練について 3．シミュレーション訓練について 4．災害マニュアル改訂について 5．災害支援協力文書の作成について	武田会長、 塩見、金子美、 金子真、西宮、 島森
7月25（土）	第 1 回委員会 (ZOOM 開催)	1．自己紹介 2．今後の予定 3．九都県市合同防災訓練について 4．シミュレーション訓練について 5．災害マニュアル改訂について 6．災害支援登録者協力助産院の見直し 7．コロナ禍で災害が起きた時の対応についての話し合い	武田会長、 足立、伊東、 田邉、島森、 金子真、金子美、 西宮、塩見
8月27日（木）	第2回役員会 (武田助産院)	1．九都県市合同防災訓練について 2．シミュレーション訓練について 3．災害マニュアル改訂について 4．災害時協力支援文書について 5．災害支援登録者について	武田会長、 金子美、金子真、 西宮、島森、塩見
9月6日（日）	第 2 回委員会 (ZOOM 開催)	1．九都県市合同防災訓練見送りについて 2．シミュレーション訓練：シナリオ 3．災害マニュアル改訂：スケジュール 4．災害時支援協力文書について 5．リエゾンについての認識共有	武田会長、 佐藤副会長、 田邉、伊東、 島森、石毛、 進藤、金子美、 金子真、西宮、 塩見
1月14日（木）	第3回役員会 (ZOOM 開催)	1．シミュレーション訓練反省会 2．災害時支援協力文書について 3．日本助産師会主催災害時安否訓練について	武田会長 金子美、金子真、 西宮、島森、塩見
1月31日（日）	第3回委員会 (ZOOM 開催)	1．令和2年度活動報告 2．令和3年度事業計画案・予算案 3．災害マニュアル改訂：修正見直し等 4．リエゾン研修会の伝達・報告	

２．令和２年度　委員会目標に対する結果・評価

目標	内容	結果・評価
１.全地区の情報共有を図る。	１）通常定例会及び必要に応じ臨時会議を開催する。 ２）各地区との情報の共有や、また問題発生時には解決に努める。	１）通常定例会はZOOMにて3回開催。 ２）コロナ禍ではあったが、委員会グループ LINE やメールにて情報共有はできた。
２．災害時支援マニュアルの見直し、改訂を進める。	１）令和3年度の配布に向けて、内容の見直しを進める。	１）令和3年12月発行予定。スケジューリング決定。改訂に向けて担当を決め、内容見直しを継続中。コロナ禍の中で、内容検討の方法を考えていく必要がある。
３.災害時の初動動作に有効なシミュレーションと準備をする。	１）シミュレーションができる災害時訓練への参加を促す。 ２）災害時マニュアルの熟読を推進する。 ３）普段から母子支援に対するスキルアップに努める。 ４）災害時支援協力員の確保に努める。 ５）災害時連絡網を整備する。(7月・1月に見直し)	１）シミュレーション訓練を見直し 11月に実施した。反省を来年度に反映させる。 ２）地区毎にお願いしているが、コロナ禍により地区会開催していない地区もある。 ３）地区での子育て支援等で個人のスキルアップを常に目指している。 ４）今年度は積極的に行なうことができなかった。今後呼び掛けていく。 ５）1月に見直しを行う。各地区とも連絡ツールを使用し、整備に努めている。
４.日本助産師会及び近隣都道府県との連携を図り、応援依頼のための準備を進める。	１）日本助産師会主催及び他機関主催の災害対策研修へ参加する。 ２）日本助産師会地区研修会等で、近隣助産師会の災害時支援の連携について検討し合う。 ３）近隣助産師会による支援協力を受ける時の手順を考える。	１）11 月に開催された研修会へ参加した。 ２）研修会の中で近隣助産師会と災害時は協力し合うことを確認することができた。 ３）委員会がZOOM開催ということもあり、限られた時間の中で手順までは検討できなかった。
５.地域の災害対策事業に参加する。	１）市町村との災害時支援協力を図る。(災害時支援協定) ２）災害時支援協定締結後の市町村と細部の活動を確認する。 ３）地域の防災訓練に参加し、助産師活動をアピールする。	１）現在、2市と話し合い中である。 ２）今年度は、佐倉市・成田市と協定内容確認の会議が持てた。 ３）地域の防災訓練は中止、または参加できず。千葉県リエゾンとのコネクションができ、リエゾン研修会に参加した。
６.協定市以外の市町村との災害時連携に向けた準備をする。	１）協定市以外の市町村に、助産師会を知ってもらい、災害時に母子支援に入る準備ができている旨の文書を作成し、郵送する。	１）文書を作成し、各市町村に郵送した。 ２）数市町村より、文書に対する問い合わせの連絡があった。

３．次年度（令和３年度）課題

１）災害時支援マニュアル(改訂版)を発行する。

２）市町村との災害時支援の連携を図る。

３）災害時初動を円滑にするための準備をする。

４）地域活動(防災訓練等)の中で助産師活動のアピールに努める。

令和２年度　広報委員会　活動報告

委員長　山本裕子
委　員　鈴木香里、佐藤靜子、齋藤明子

１．委員会開催状況

開催日	議題	内容	出席委員名
5 月 14 日（木） はじめての Zoom による委員会	第 1 回委員会 ・年間計画 ・役割分担	・大潮 32 号内容検討 ・分担（編集/山本・齋藤、会計/佐藤、原稿依頼/佐藤・鈴木、広告等/鈴木 ・新メンバーオリエンテーション	広報委員
5 月 31 日（日）	大潮 32 号原稿依頼	・そうクリニック（1 回目） ・CAC（3 回目） ・東洋羽毛（3 回目）	佐藤、鈴木
6 月 17 日（水）	１．原稿締め切り ２．編集作業開始	・メール、ライン会議 ・執筆者へメールで原稿確認	広報委員 4 名
7 月 5 日（日）	イロドリ入稿、入金	・500 部発注→山本宅へ宅配	山本、佐藤
7 月 21 日（火）	大潮 32 号発行 第 2 回委員会	・発送作業 ・大潮 33 号内容・日程の検討 ・発送依頼→佐藤副会長	広報委員 4 名 佐藤副会長、 小野（庶務）
7 月 23 日（木）	１．HP 掲載依頼	・武田企画へメールで依頼	齋藤
10 月 10 日（土）	大潮 33 号原稿依頼	・そうクリニック（2 回目） ・東洋羽毛（1 回目）	佐藤、鈴木
10 月 30 日 ～11 月 25 日	大潮 33 号校正編集	・メール、ライン会議 ・執筆者へメールで原稿確認	広報委員
11 月 26 日 ～12 月 2 日	イロドリ入稿、承認確認、入金	・500 部発注→山本宅へ宅配	山本、佐藤
12 月 11 日（金）	大潮 33 号発行 第 3 回委員会 HP 掲載依頼	・発送作業、若葉郵便局へ持込み ・大潮 34 号内容・日程の検討 ・武田企画へメールで依頼	広報委員、 小野（庶務） 佐藤副会長、事務
1 月 9 日（土）	大潮 34 号原稿依頼	・そうクリニック（3 回目） ・東洋羽毛（2 回目）	佐藤、鈴木
2 月 4 日 ～3 月 2 日	大潮 34 号校正編集	・メール、ライン会議 ・執筆者へメールで原稿確認	広報委員
3 月 4 日（木）	イロドリ入稿、承認確認、入金	・500 部発注→山本宅へ宅配	山本、佐藤
3 月 22 日（月） 3 月 23 日（火）	大潮 34 号発行 第 4 回委員会 HP 掲載依頼	・発送作業、若葉郵便局へ持込み検討 ・大潮 35 号内容・日程の検討 ・武田企画へメールで依頼	広報、庶務、子育て

２．令和２年度　委員会目標に対する結果・評価

目標	内容	結果・評価
１．計画的、効率的に大潮発行活動に取り組む	1) 年間計画を作成し、大潮を年 3 回発行する。 2) 原稿依頼・編集・発送に関して手順・役割分担をマニュアル化し、効率的に大潮を作成する。	・カラー判の大潮 32 号、33 号、34 号が計画通り発行できた。 ・マニュアルを今年度 4 月に完成した。 ・新しいメンバーが加入してもマニュアルによりスムーズに業務に取り組めた。 ・事務員さんのお陰で、集荷や発送がスムーズになった。
２．コロナ禍の現在、大潮を通して、会員へ助産師会の活動を広報する	1) 大潮の内容は、千葉県助産師会の事業や研修会の情報などを記載し、会員に配布する。 2) ホームページとメーリングリストの活用について広報する。	・写真を多用した紙面で、助産師会の活動の様子を広報した。興味を引く工夫ができた。 ・報告のみでなくコロナ禍で活動する会員の様子を伝えた。
3.大潮やリーフレットを通して、他機関へ千葉県助産師会の活動を広報する	1) 大潮の内容は、千葉県助産師会の事業や研修会の情報などを掲載し日本助産師会及び他機関へ送付する。 2)千葉県助産師会ホームページに大潮を掲載する。 3) 各地区のイベントで、リーフレットを活用してもらう。	・庶務と連携し、「大潮」を日本助産師会、病院、クリニック、保健所等関係諸機関へ送付した。 ・千葉県助産師会の HP に大潮を掲載した。 ・予備の「大潮」の活用として理事・地区会長に 5 部ずつ配布。 ・関係機関へ訪問時、持参し手渡しして助産師会の活動をアピールしていただく。
4.活動の写真を、保存・整理する	1)使用した写真はデータとして整理し、保存する。	・USB と GoogleDrive に保存している。
5.コストについて検討	1）発行回数について検討 2）協賛広告について検討	・現在、コロナ禍でイベントの活動が自粛し減少しているため、発行も２回で良いのではないかとの意見があり検討中。 ・東洋羽毛、CAC、そうクリニックの協賛広告が得られた。

３．次年度（令和３年度）課題

１）委員への業務負担軽減

２）発行回数やページ数についての検討

令和２年度　将来構想検討委員会　活動報告

委員長　武田智子
委　員　佐藤美保子　増田美恵子
小柴和子　來田美鈴　清水清美

１．委員会開催状況
運営会議および理事会で検討

２．令和２年度　委員会目標に対する結果・評価

目標	内容	結果・評価
１．社会のニーズを把握し、助産師会活動に反映する。	１）国・県・市町村から発信された情報を収集する。 ２）関連機関との連携を促進し、情報収集に努める。 ３）情報を運営会議や理事会で共有し事業展開について検討する。 ４）必要に応じて事業展開に向けた準備に着手する。	１）２）行政・関連機関の会議や話し合いに参加することによって情報収集した。 ３）収集した情報を運営会議や理事会で共有し、災害支援等における行政及び関連機関の事業に協力した。千葉県からの依頼で、ウイルスに感染した妊産婦への寄り添い型支援事業に協力した。 ４）今年度準備した事業はなかった。
２．会員の増加に努めると共に、潜在しているマンパワーの把握と育成の提案を行う。	１）会員の増加に努める。（目標 360 名） ２）会員の活動調査内容を把握し、必要な情報を発信する。 ３）会員の育成に必要な研修会を提案する。	１）会員数 363 名（年度末退会予定者を除く、1 月 20 日現在の会員数） ２）会員の活動内容は把握し、必要な情報は「大潮」や HP、ML で発信した。 ３）新型コロナウイルス感染に関する研修会を含めて、会員に必要な研修会の提案はできたが、コロナ禍での研修会開催方法の工夫が必要である。
３．事務所の管理・運営の安定化を図る。	１)事務所の管理･運営方法を見直す。 ２）事務員の雇用の維持・安定化を図る。	１）事務所の管理・運営方法を検討した。 ２)新規に事務員を雇用し、雇用の維持・安定化を図っている。
４．助産所の存続と発展に向けた活動を行う。	１）助産所（有床・無床）の減少を最小限にし、継続・発展するために後継者の育成を図る。 ２）助産所経営の在り方を模索し、話し合う。 ３）各専門部会の会員の意見を収集する。 ４）他県で活発に運営している助産所施設の見学を通して学ぶ。	１）２）分娩を取り扱う助産所数の減少はない（有床 8 か所、無床 4 か所）が、後継者の育成や助産院の存続に向けた話し合いは今後も継続していく。 ３）各専門部会の会員の意見は部会集会等で収集し、意見交換や情報収集をすることができた。 ４）助産施設の見学は出来なかったがコロナ禍での連絡は取り合った。
５．地区部会の入会者を増やし、地区部会活動への参加を促す。	１）各地区部会の母子保健活動に関する情報を収集し整理する。 ２）全ての会員が該当地区部会に所属し、地区部会活動に参加する機会を得られるよう促す。	１）理事会等で共有し、情報交換の機会を持つことができた。 ２)新会員へは入会パンフレットを用いて周知し、地区部会にも必ず入会するよう促した。

６．専門部会間の連携を強化して組織活動を展開する。	１）３部会集会を開催し、部会間の連携を図る。 ２）３部会に共通したテーマについて検討する機会をもつ。 ３）病医院、助産所、地域で働く助産師が連携する方法を探る。	１）部会集会は開催できなかったが、研修会で部会間の連携を図った。 ２）３部会に共通したテーマである「妊産褥婦・新生児へのケア with 新型コロナ」について研修会を開催して、活発な討議ができた。 ３）研修会等では病医院、助産所、地域で働く助産師が連携できた。

３．次年度（令和３年度）課題

１）社会の変化やニーズを把握し、助産師会活動に反映する。

２）会員増加に努めるとともに、マンパワーの把握と育成の提案も行う。

３）事務所の管理・運営の安定化を図る。

４）助産院の存続と発展に向けての活動を行う。

５）地区部会の入会者を増やし、地区部会活動への参加を促す。

６）専門部会間の連携を強化して組織活動を展開する。

令和２年度　細則検討委員会　活動報告

委員長　武田智子
委　員　佐藤美保子　増田美恵子　理事

１．委員会開催状況

理事会・委員会の席で審議事項として検討した。

２．令和２年度　委員会目標に対する結果・評価

目標	内容	結果・評価
１．定款および細則の見直しを適宜行う。	１）総会において、定款を改正する。	１）総会にて定款改正案を提示した。令和２年度は書面総会となり、会員 352 名中 183 名から返信があり、定款改正案に対して全員賛成だったが、定款改正は、正会員総数の３分の２以上の決議権を有する者の同意を得なければならないため、承認されなかった。定款改正は、次年度に再度議案とする。
	２）地区集会やホームページを通し、会員への周知を図る。	２）定款はホームページ等にて周知を図った。
	３）定款と細則の見直しを行う。	３）次回の改正に向けて、定款および細則の内容を見直した。
２．各専門部会・各委員会の規程作成および活動マニュアル作成の取り組みを支援する。	１）各委員会の規程を適宜見直す。 ２）各部会や委員会の役割を明確にし、規程および活動マニュアル作成の取り組みを支援する。	１）各委員会の規定については、現状で継続とする。 ２）規程および活動マニュアルの作成についての支援は、継続中である。
３．規程集を作成する。	１）既存の規程を適宜見直す。 ２）本会の活動に必要な規程があれば、新たに作成する。	１）既存の規定を見直している。 ２）今年度に新たに作成した規程はないが、必要な規定を検討中である。
	３）それぞれの規程を規程集としてまとめる。	３）規定をまとめるべく、規程を確認中である。

３．次年度（令和３年度）課題

１）定款・細則の見直しを行う。
２）各部会・委員会の活動規定および活動マニュアルの作成を支援する。
３）規程集を作成する。

令和２年度　生と性の健康教育特別委員会　活動報告

委員長　小路和子
委　員　伊藤志保　川島広江　狛千恵子　齋藤葉子
鶴岡利江子　根岸雄子　増田文子

１．委員会開催状況

開催日	議題	内容	出席委員名
4月12日（日） メール･LINE会議	１．研修・交流会 ２．ニュースレター	･外部講師による研修会はコロナ禍のため延期とする ・ニュースレター第4号の内容	伊藤　川島　鶴岡 根岸　増田　小路
5月10日（日） Zoom会議 メール会議	１．ニュースレター ２．Web研修	・特集「講座実施・継続のための広報をどうするか？」 ・委員によるWeb研修を開催検討	伊藤　川島　狛 増田　小路
5月16日（土） Zoom会議	１．Web研修 ２．ニュースレター	・Web研修テーマ決定 ・実施方法、アンケート集計方法 ・受付などの準備について	伊藤　川島　狛 鶴岡　根岸 増田　小路
5月10日～ 6月5日 メールでの検討	１．Web研修 ２．ニュースレター	・研修資料作成、役割分担 ・ニュースレター原稿について意見交換、校正 6月11日第4号発行した。	伊藤　川島　狛 鶴岡　根岸 増田　小路
6月13日（土） Web研修リハーサル	１．リハーサル	・Zoom手順、進行など確認	伊藤　川島　狛 鶴岡　根岸 増田　小路
6月14日（日） Web研修	１．研修	・テーマ「性の自己決定につながっていますか～ふれあい体験事業を再考する～」 ・47名参加（委員含む）無料	伊藤　川島　狛 鶴岡　根岸 増田　小路
7月12日（日） Zoom会議	１．委員会の活動について ２．ニュースレター	・これまでの活動を振り返り、為しえたこと、今後の課題について意見交換 ・特集「講座実施・継続のための広報をどうするかpart2」	伊藤　川島　鶴岡 根岸　増田　小路
9月4日（金） Zoom会議	１．健康教育の現状 ２．ニュースレター	・各地区の健康教育の現状、コロナ禍での工夫について情報交換 ･健康教育の現状のまとめも入れる	伊藤　川島　狛 鶴岡　根岸　増田 小路
7月12日～ 10月5日 メールで検討	1．ニュースレター	・ニュースレター原稿について意見交換、校正 ・10月9日第5号発行した	伊藤　川島　狛 齋藤　鶴岡　根岸 増田　小路

11 月 21 日(土) Zoom 会議	1. 健康教育教材 2. ニュースレター 3. 中間報告と次年度	・日本助産師会発行の健康教育パワーポイント教材の検討 ・今後の活動について検討	伊藤　川島　狛 鶴岡　根岸　増田 小路
11 月 22 日～ 1 月 30 日 メールで検討	1. ニュースレター	・ニュースレター原稿執筆 意見交換、校正 ・2 月第 6 号（最終号）発行予定	伊藤　川島　狛 齋藤　鶴岡　根岸 増田　小路
1 月 24 日（日） Zoom 会議	1. 活動報告と次年度計画	・来年度の活動について検討 ・コロナ禍での健康教育の実施方法について情報交換	伊藤　川島　鶴岡 根岸　増田　小路

2. 令和２年度　委員会目標に対する結果・評価

目標	内容	結果・評価
１.「生と性の健康」の意義・必要性について会員の理解を深める	1) 研修・交流会を開催する (1) 研修・交流会を開催する 6 月 14 日(日)午後開催予定 千葉市民会館 2) ニュースレターを発行する (1) 年 3 回、会員メールを利用して発行する	1）6 月 14 日に Web 研修を開催した。参加者 47 名。メインテーマ「性の自己決定につながっていますか～ふれあい体験事業を再考する～」とし、委員 3 名がそれぞれの立場で発言した。 Web 研修としたことで様々な事情を抱えた人が参加しやすかったことなどの利点もあった。また年度の始めに先だって中止とせずに Web 研修を開催したことが他の委員会の研修開催につながった一面もあった。 2）ニュースレターを 5 月 10 月 2 月に予定通り発行した。
２.「生と性の健康教育」の方略を検討する	1) 昨年度作成した『生と性の健康教育“実施の現状”のまとめ 2019.8 現在』を読み解き、課題を洗い出し、今後も健康教育を継続していけるよう図る 2) 地区を越えて講座を見学できるよう情報を提供する	1）コロナ禍で、現状をまとめたところから状況が大きく変わった部分もあり、また新たな課題も出現した。その中でも、各地区で様々な工夫をしながら講座を開催した。 今年度の実情を振り返り、「新しい日常」の中で健康教育をどう継続していくかが次年度の課題である。 2）コロナ禍で健康教育が開催できない期間があった。また感染拡大防止の観点から見学はできなかった。

３．次年度（令和３年度）課題

１）コロナ禍での「新しい日常」の中で健康教育を実施・継続していくための方略を検討する。

６．表彰および福祉事業報告

＜令和２年度＞

母子保健奨励賞

根岸　雄子　　様

公益社団法人日本助産師会名誉会員

小林　みさ子　　様

公益社団法人日本助産師会会長表彰

米村　洋子　　様
田村　陽子　　様
佐藤　美保子　様

＜令和３年度＞

公益社団法人日本助産師会永年活動感謝状

齋藤　葉子　　様

７．行政および関連団体等への会議参加状況

地区	会議名
千葉県助産師会全体	千葉県母性衛生学会理事会 千葉県医療推進協議会
柏･野田・我孫子・流山・松戸	柏市保健衛生審議会母子保健専門分科会 柏市立教育研究所　乳幼児保健懇話会 松戸市母子保健連絡推進協議会 我孫子市まち・ひと・しごと創生有識者会議
市川・浦安	市川市 STD 対策推進協議会 社会福祉協議会評議員会 浦安市子ども家庭支援センター養育訪問支援会議 浦安市健康増進課症例検討会 市川保健所母子健康推進会議
船橋	船橋市要保護児童及び DV 対策地域協議会代表者会議 船橋市地域保健推進協議会母子保健部会
習志野・八千代・鎌ケ谷	八千代市思春期保健ネットワーク会議 八千代市妊娠・出産関連機関連絡会
印旛	印旛健康福祉センター運営会議 印旛地区母子健康推進協議会 成田市赤ちゃん訪問連絡会 災害協力運営会議（佐倉市・成田市） 産後ケア訪問事業協議会（佐倉市・四街道市・成田市）
香取・海匝・山武	山武市要保護児童対策協議会 海匝保健所母子保健推進協議会 香取市保健所母子保健推進協議会
千葉	千葉市地域保健医療協議会 千葉市健康づくり推進協議会 千葉市保健所運営協議会 健やか未来都市ちばプラン推進協議会 千葉地域医療構想調整会議
市原・君津・安房	いちはら健康まちづくりプラン 周産期保健に関する連絡調整会議 市原健康福祉センター母子保健推進協議会 君津地域産後ケア事業調整会議 君津健康福祉センター母子保健推進協議会 君津健康福祉センター産後ケア連絡調整会議・事業の推進 安房母子保健推進協議会

８．令和２年度　千葉県助産師会の動向

月　日	内　容
4 月 5 日	第 1 回運営会議
4 月 12 日	第 1 回理事会
4 月 26 日	総会準備（資料発送）
5 月 9 日	庶務引き継ぎ
5 月 10 日	一般社団法人千葉県助産師会総会（書面表決）
5 月 10 日	第 2 回理事会
5 月 10 日	第 1 回三役会
5 月 17 日	第 2 回運営会議
5 月 24 日	武田企画とホームページの話し合い
5 月 25 日	千葉県提供マスク発送作業
5 月 29 日	公益社団法人日本助産師会　第 93 回通常総会（電磁的審議）
5 月 30 日	公益社団法人日本助産師会　第 76 回日本助産師学会（web 開催）
6 月 7 日	第 3 回理事会
6 月 19 日	事務員面接・採用
6 月 28 日	臨時三役会
6 月 30 日	法務局へ登記変更書類申請
7 月 8 日	法務局へ登記変更書類提出
7 月 21 日	第 32 号 大潮の発送
7 月 24 日	千葉県提供マスク、防護服発送作業
8 月 7 日	第 2 回三役会
8 月 21 日	千葉県医療整備課および児童家庭課への要望書提出
8 月 21 日	千葉県医師会へのご挨拶
8 月 23 日	第 3 回運営会議
8 月 31 日	千葉県議会議員への請願書提出
9 月 6 日	第 4 回理事会
10 月 9 日	千葉県提供マスク、防護服、フェイスシールド発送作業
10 月 11 日	公益社団法人日本助産師会　南関東地区代表者会議
10 月 12 日	シミュレーション訓練および安否確認
10 月 13 日	第 3 回三役会
10 月 16 日	千葉県医療推進協議会
11 月 8 日	第 4 回運営会議
11 月 12 日	公益社団法人日本助産師会　都道府県助産師会代表者会議（web 会議）
11 月 22 日	第 5 回理事会
12 月 6 日	中間監査
12 月 11 日	第 33 号 大潮の発送
1 月 7 日	第 4 回三役会
1 月 14 日	スタジオアリス話し合い
1 月 17 日	第 5 回運営会議
1 月 31 日	第 6 回理事会
2 月 2 日	災害に対応する訓練（公益社団法人日本助産師会企画）
2 月 19 日	第 5 回三役会
3 月 7 日	第 6 回運営会議
3 月 21 日	第 7 回理事会
3 月 22 日	第 34 号 大潮の発送
3 月 31 日	令和２年度　会計監査、事業監査

９．令和２年度　メーリングリスト配信状況報告

月	内　容
令和２年	
4	【お知らせ】愛媛県での総会・学会開催中止（Web 開催シフト）のご連絡
	【情報提供】「妊婦の方々などに向けた新型コロナウイルス感染症対策について」等について
	【情報提供】「妊婦の方々などに向けた新型コロナウイルス感染症対策」関連資料
	【お知らせ】日本助産師学会（ Web 開催）申込再開について
	【事務連絡】母子保健事業等の実施に係る新型コロナウイルスへの対応について
	【事務連絡】新型インフルエンザ等対策特別措置法第 48 条に基づき臨時に開設される医療施設等に係る医療法等の取扱いについて
	【事務連絡】妊娠中の女性労働者などへの配慮に関する企業向けリーフレット等について
	【ご連絡】新型コロナ感染拡大による妊産婦への対応と対策案についての警鐘
	【ご連絡】新型コロナウイルス感染症に係る雇用維持等に対する配慮に関する要請について
	【ご参考】日本産婦人科医会からの新型コロナウイルス関連の資料について
	「国際助産師の日」集い　中止のお知らせ
	【事務連絡】新型コロナ感染症への対応に係るＤＶ被害者に対する相談窓口の設置について
	緊急事態宣言時に事業の継続が求められる事業所等で働く方々の感染予防、健康管理の強化について
	千葉県助産師会会長からのメッセージ
	令和２年度一般社団法人千葉県助産師会通常総会の開催（書面表決）について
	【通知】新型コロナウイルス感染症対応にかかる医療機関の開設手続等について
	日本助産師会より要望書提出
	新型コロナウイルス感染拡防止に向けた取り組みと日本助産師会助産師活動について
	【情報提供】新型コロナウイルス感染症に関連した医療提供体制等の整備における看護職の確保について
	【情報提供】新型コロナウイルスにおける個人事業主支援策について
	【事務連絡】医療機関における新型コロナウイルスに感染する危険のある寝具類の取扱い
	【事務連絡】新型コロナウイルスの感染拡大に伴い出産に不安を抱える妊産婦の方々への配慮について
	【事務連絡】「母子保健事業等の実施に係る自治体向け Q&A（令和２年４月２４日時点)」
	【公開のご連絡】コロナ対応ビデオメッセージ
	新型コロナウイルス感染症の発生により申告・納付が困難な場合における国税の取扱いに関する周知広報について
5	【協力依頼】]「子どもの見守り強化アクションプラン」の実施にあたっての協力依頼について
	【通知】母性健康管理指針の改正について
	【情報提供】新型コロナウイルス感染症緊急経済対策における税制上の措置等について
	【事務連絡】新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた妊娠中の医師、看護師等への配慮について
	【情報提供】電子処方箋の運用ガイドライン一部改正について
	【お知らせ】新型コロナウイルス感染症に関連した不当な偏見・差別の防止に係る取組
	【事務連絡】「母子保健事業等の実施に係る自治体向け Q&A（令和２年５月１日時点)」
	【事務連絡】出産場所の確保等の不安を抱える妊婦の方々への相談窓口の設置について（情報提供）
	【情報提供】新型コロナウイルス感染の拡大に対応する医療人材の確保の考え方及び関係する支援メニューについて
	【お知らせ】千葉県助産師会ホームページの助産所紹介欄申込みおよび費用について
	千葉市助産師会「オンライン・リアルタイム講座」のご案内
	【お知らせ】厚生労働省妊産婦臨時相談ダイヤル実施報告
	【情報提供】母性健康管理指針の改正に係る周知について
	【事務連絡】地域外来・検査センターの運営に係る医療法上の臨時的な取扱いについて
	【情報提供】リーフレット「新型コロナウイルス感染症対策（COVID-19）の改訂について

月	内　容
5	【情報提供】職場における新型コロナウイルス感染症への感染予防、健康管理の強化について
	オンライン研修・交流会開催のお知らせ（生と性の健康教育特別委員会）
	【通知】新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言解除を踏まえた各種健診等における対応について
6	【情報提供】新型コロナウイルス関連給付金等について
	千葉県助産師会保健指導部会より、新型コロナウイルス感染症への対応について
	オンライン研修の申込み締め切りについて（生と性の健康教育特別委員会）
	【事務連絡】母子保健事業等の実施に係る自治体向け Q&A（令和２年６月２日時点）
	【事務連絡】新型コロナウイルス感染症の感染防止を目的としたオンライン・電話診療時の医療機関における薬剤配送方法に関する留意事項について
	【ご連絡】今年度地区研修会中止のお知らせ
	【事務連絡】新型コロナウイルス感染症に伴う乳幼児健診の実施に係る周知について
	【事務連絡】母子保健医療対策総合支援事業における令和２年度第二次補正予算に係る Q&A
	生と性の健康教育特別委員会　ニュースレター第４号
	【情報提供】産後ケア法施行に伴う省令改正案及び産後ケア事業ガイドラインのパブリックコメント募集について
	【通知】「新型コロナウイルスに関する母性健康管理措置による休暇取得支援助成金」及び「同母性健康管理措置」の周知協力依頼
	【事務連絡】「新型コロナウイルス感染症に関する母性健康管理措置による休暇取得支援助成金」等の周知へのご協力について
	【事務連絡】母子保健医療対策総合支援事業における令和２年度第二次補正予算に係るＱＡ等
	【情報提供】新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業（医療分）の実施要綱・交付要綱について
	医療安全に関する標語の募集について
	【事務連絡】新型コロナウイルス接触確認アプリの周知について
	千葉県助産師会　３部会合同　安全対策委員会研修会のご案内
7	【事務連絡】レジ袋有料化（プラスチック製買物袋有料化）について
	【事務連絡】新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業に関するＱ＆Ａ（第３版）の発出について
	低出生体重の赤ちゃんとご家族のための冊子
	【事務連絡】新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業に関するＱ＆Ａ（第４版）の発出について
	【事務連絡】令和２年７月３日からの大雨による災害による被災者に係る児童福祉法による助産の実施について
	【事務連絡】妊産婦及び乳幼児等に対する支援のポイント等について
	【事務連絡】令和２年７月３日からの大雨による災害による被災者に係る妊婦健康診査等の各種母子保健サービスの取扱いについて
	【事務連絡】新型コロナウイルス感染症の患者数増加に備えた人工呼吸器の十分な確保について
	【事務連絡】低年齢層の子供の保護者向け普及啓発リーフレットについて
	【ご連絡】令和３年度「児童福祉週間」の標語募集について
	母乳育児支援セミナー中止のお知らせ
	【情報提供】「災害対応力を強化する女性の視点」について
	【事務連絡】母子保健医療対策総合支援事業における令和２年度第二次補正予算に係るＱＡ等
	【事務連絡】令和２年７月豪雨による災害に伴う診療録等の文書の保存に係る取扱いについて
	８月 22 日（土）「骨盤ケア」研修会　中止のお知らせ
8	【内閣府・男女局】第５次男女共同参画基本計画策定に当たっての基本的な考え方（素案）について
	新型コロナウイルス感染症対応従事者慰労金について
	新型・コロナウイルス感染症緊急包括支援事業（医療分）のうち医療機関・薬局等における感染拡大防止等支援事業の実施について

月	内　容
8	【通知】「「母子保健法の一部を改正する法律」の施行について」及び「病院、診療所又は助産所と産後ケアセンターとの併設等について」に係る情報提供について等
	【事務連絡】「医療法の一部を改正する法律の一部の施行について」及び「病院、診療所等の業務委託について」の一部改正について
	広告の取り扱いに関するお知らせ
	不安を抱える妊婦への分娩前ウイルス検査について（医療機関向けマニュアル）
	【再周知】職場における新型コロナウイルス感染症への感染予防、健康管理の強化について
	いのちの講座(大人が学ぶ講座)開催のお知らせ
	令和２年度千葉県公衆衛生学会演題募集について
	【事務連絡】産前産後期間に係る国民年金保険料の免除の周知について（協力依頼）
9	オンラインによる「助産師の活動における新型コロナ感染対策講座」のご案内
	『IPV 被害妊婦への早期対応に向けた教育プログラム』参加のお願い
	【通知】新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく協力要請について（会食自粛の解除）
	【日本助産師会主催　WEB 研修会】　申込み開始しました
	【報道発表】イベントの開催に関する協力要請について
	【期限延長】雇用調整助成金の特例及び休業支援金・給付金の申請期限等について
	【千葉県】今冬のインフルエンザワクチンの優先的な接種対象者への呼びかけについて
	千葉県新生児聴覚スクリーニング検査公費負担説明会の開催について
	【再配信】オンラインによる「助産師の活動における新型コロナ感染対策講座」のお知らせ
10	【事務連絡】母性健康管理措置・助成金に係る特別相談窓口の開設等に関する通知
	【通知】母子保健法施行規則の一部を改正する省令の公布及び母子健康手帳の記載事項の取扱い等について
	令和２年度児童虐待防止に関する母子保健担当者研修（ Ⅰ部）の開催について
	【生と性の健康教育特別委員会】ニュースレター第５号
	令和２年度「思春期講演会」の開催について
	医療機関の必要な受診に関する周知依頼について
	【事務連絡】インフルエンザ流行期に備えた発熱患者の外来診療・検査体制確保に係る診療時間等の変更に係る医療法上の取扱いについて
	【事務連絡】予備費を活用した医療機関等への更なる支援について
	千葉県助産師会ホームページ「助産所紹介」ページの更新について
	小中高生への性教育実態調査について
	【ご案内】日本助産師会オンデマンド研修
	令和２年度第１・２回母子保健指導者研修会のお知らせ
	【協力依頼】令和２年度「児童虐待防止推進月間」の実施について
	令和２年度保健医療従事者等研修会の開催について
	【局長通知】令和２年度乳幼児突然死症候群（SIDS）対策強化月間の実施について
	第 16 回医療安全大会のご案内
	『「看護の日・看護週間」制定 30 周年・ナイチンゲール生誕 200 周年記念事業 in ちば』のお知らせ
11	令和２年度看護職員業務従事者届について
	日本助産師会勤務助産師部会のみなさまへ『分娩費用に関する実態調査』ご協力のお願い
	千葉県助産師会　勤務助産師部会　研修会のお知らせ
	令和２年度児童虐待防止に関する母子保健研修の追加開催について
	【お知らせ】2020 年度日本助産師会保健指導部会委員会部会集会 申込み受付開始
	「新型コロナウイルス感染拡大防止のための皆さまへのお願い」について（通知）
	【お知らせ】厚生労働省　令和２年度「児童虐待防止推進月間」特設ホームページ開設
	【お知らせ】コロナ下の女性への影響と課題に関する研究会　緊急提言について
	「３連休における新型コロナウイルス感染拡大防止のための皆さまへのお願い」について
	（周知）新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業について
	児童虐待防止啓発について
	新型コロナウイルス感染症に関する医療機関への助成金等に関する不審な勧誘等について

月	内　容
12	感染拡大防止のための集中的な対策の実施について（通知）
	全国助産所一覧掲載について
	日本助産師会勤務助産師部会より　第2回勤務助産師部会オンライン集会のご案内
	【再再周知】職場における新型コロナウイルス感染症への感染予防、健康管理の強化について
	新型コロナウイルス感染症対応従事者慰労金（医療分）の申請期限の延長について
	【お知らせ】省エネルギー・省資源対策推進会議省庁連絡会議にて「冬季の省エネルギーの取組について」
	千葉県助産師会子育て委員会主催「研修会＆事例検討会」のご案内
	埼玉県助産師会からの研修会のご案内
	【お知らせ】出生証明書の押印・署名について
	【ご案内】千葉県災害時小児周産期リエゾン研修の開催について
	令和３年度「助産師の電話無料相談」へのご協力のお願い（子育て委員会）
	【事務連絡】医療機関、高齢者施設等の検査について
	【事務連絡】年末年始に向けた医療提供体制の確保に係る診療時間等の変更に係る医療法上の取扱いについて
	【事務連絡】新型コロナウイルス感染症に係るワクチンの迅速な接種のための体制確保に係る医療法上の臨時的な取扱いについて
	【通知】年末年始の感染拡大防止のための対策の実施について
	【通知】母子健康手帳の任意記載事項様式について
	「病床確保計画におけるフェーズ４移行に際しての新型コロナウイルス感染拡大防止のための皆さまへのお願い」について（通知）
	【お知らせ】健やか親子２１（第２次）オンラインイベント アーカイブ配信中
	【事務連絡】「静かな年末年始」に関するメッセージ等の周知について
	[内閣府・男女局]第5次男女共同参画基本計画の閣議決定について
	第38回千葉県母性衛生学会学術集会・2020年度セミナーのご案内について
	【事務連絡】母健措置、母健助成金等の期限延長に関する周知への御協力依頼
	産後ケア実務助産師研修修了者申請書類の更新について
令和３年	
1	医療機関・薬局における感染拡大防止等支援事業について
	新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく協力要請について（通知）
	千葉県助産師会助産所部会研修会「今日から始める尿漏れ予防」のお知らせ
	【事務連絡】令和３年１月７日からの大雪に伴う災害による被災者に係る児童福祉法による助産の実施について
	【事務連絡】令和３年１月７日からの大雪による災害による被災者に係る妊婦健康診査等の各種母子保健サービスの取扱い等について
	【事務連絡】新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言を踏まえた各種健診等における対応について
	令和２年度第３回母子保健指導者研修会について
	【コロナ】新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策について（通知）
	【事務連絡】母子保健事業等の実施に係る自治体向けＱ＆Ａ（令和３年１月８日時点）
	【事務連絡】新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言に伴う周知依頼について
	【事務連絡】緊急事態宣言の発出を踏まえた職場における新型コロナウイルス感染症への感染予防及び健康管理について
	【事務連絡】臨時の医療施設に係る医療法等の取扱いについて
	（修正）母子健康手帳の任意記載事項様式について
	助産師が携わる産後ケア事業に関するアンケートへのご協力依頼
	鉄道の終電時刻の繰り上げの取組等への協力について
	令和2年度千葉県公衆衛生学会開催のお知らせ
	【再修正】母子健康手帳の任意記載事項様式について

＊令和３年１月 20 日 現在、会員 375 名中 メーリングリスト登録者は 237 名

＊その他、役員用メーリングリスト、理事用メーリングリストにて役員、理事間での情報提供、周知に活用しています。

10. 令和２年度　事業部実績報告（1 月～12 月）

【委託事業実績（出産前教室委託事業）】

事業名	スタジオアリス マタニティセミナー	赤ちゃん本舗 マタニティースクール	我孫子市両親学級 「しあわせママパパ学級」
実施回数（回）	23	2	27

【市町村産後ケア委託事業：訪問型】

受託自治体	松戸市	八千代市	市原市
延べ利用件数（件）	36	49	28

11. 令和２年度　千葉県助産師会事業への協力

地区　　事業	助産師の電話無料相談	国際助産師の日（中止）
柏･野田・我孫子・流山・松戸	10	
市川・浦安	5	
船橋	4	
習志野・八千代・鎌ケ谷	6	
印旛	3	
香取・海匝・山武	4	
千葉	11	
市原・君津・安房	3	
合計	46 名	

12. 資料・主な統計

１．研修会実績報告

２.助産師の電話無料相談統計（ミッドワイフ千葉）

３．母乳育児支援に対する安全評価

４．健康教育活動報告

５．生と性の健康教育活動実績

６．助産所分娩数（自宅分娩を含む）

７．災害対策活動報告

８.「国際助産師の日」のつどい報告

９．要望書

１．令和２年度　研修会実績報告

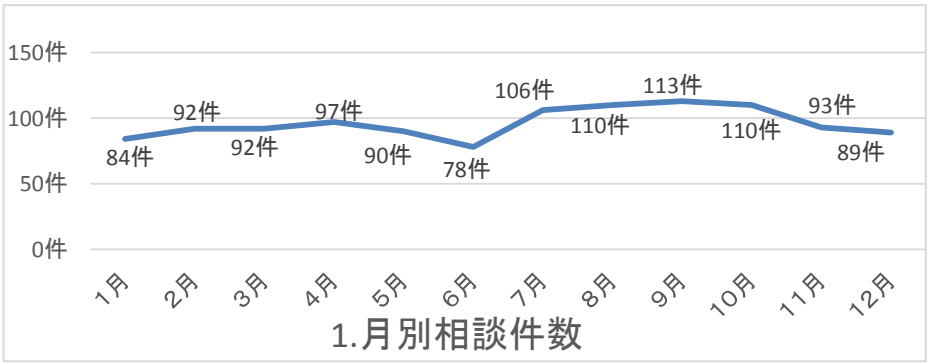
研修会名	開催日 場所	研修 時間	研修内容	講師	受講者数
【教育委員会】 地区報告会	4 月 郵送		各地区の活動実践報告	5.6.7.9 地区	全会員
【生と性の健康教育特別委員会】 性の自己決定につながっていますか-ふれあい体験を再考する-	6 月 14 日 （日） ZOOM	120 分	「ふれあい体験の危うさと活かし方」「中学生と赤ちゃんふれあい事業-授業としての取組みと地域の力」「ふれあい体験-保育士との連携事業から考える」	川島広江氏 7 地区 伊藤志保氏 3 地区 増田文子氏 2 地区	会員 37 名 非会員 10 名 （合計 47 名）
【勤務助産師部会】 周産期のメンタルヘルスケア	8月22 日 (土) ZOOM	180 分	産前・産後のメンタルヘルスケアの基本的考え方 母親と家族へのかかわり	大橋優紀子氏 城西国際大学 株式会社北村メンタルヘルス研究所	会員 17 名 非会員 1 名 （合計 18 名）
【教育委員会】 【安全対策委員会】 【保健指導部会】 助産師の活動における新型コロナ感染対策講座	9 月 27 日 （日） ZOOM	60 分	第1部 感染管理認定看護師による講義	千葉均氏 千葉大学医学部附属病院	会員 42 名 非会員 1 名 （合計 43 名）
		60 分	第2部 よしおか助産院での感染対策への取り組み	吉岡由紀子氏 よしおか助産院 母乳外来	
アドバンス助産師必須研修 【勤務助産師部会】 フィジカルアセスメント：妊娠期・代謝	12月20 日 （日） ZOOM	180 分	臨床推論につなげるためのフィジカルアセスメント	淀川祐樹氏 JCHO 船橋中央病院	会員 17 名 非会員 2 名 （合計 19 名）
【子育て委員会】 研修会&事例検討会	2月14 日 （日） ZOOM	60分	電話相談における自殺念慮がある相談者への対応「いのちの電話相談　研修担当者に話を伺う」	いのちの電話 研修担当者 水谷朋子氏 山西愛子氏	会員 33 名 非会員 1 名 （合計 34 名）
		60分	事例検討会		
【助産所部会】 今日から始める尿漏れ予防	2月21 日 （日） ZOOM	90分	女性泌尿器疾患、症状に即したきめ細やかな知識を学ぶ	戸山友香氏 日本医科大学付属病院	会員 21 名 日助会員 3 名 非会員 6 名 （合計 30 名）
【勤務助産師部会】	NCPR Sコース・骨盤ケア			中止	
【教育委員会】	母乳栄養支援セミナー 周産期のメンタルヘルス②			中止 次年度へ延期	

交流会名	開催日 場所	研修 時間	研修内容	講師	受講者数
【安全対策委員会】 妊産褥婦・新生児へのケア　with新型コロナ　情報交換しませんか？	7月10 日 （土） 千葉市民会館		３部会からの話題、事例紹介・自由討議・病産院との地域連携と感染予防対策		会員 12 名 （合計 12 名）

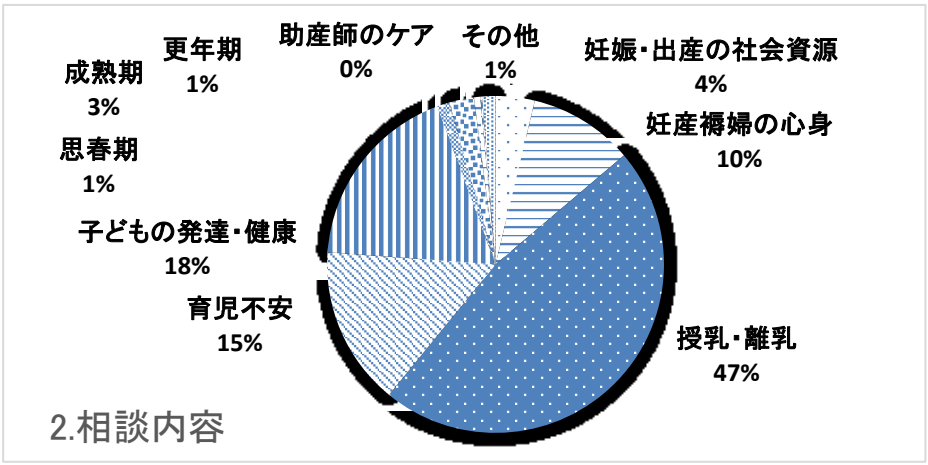
２．令和２年　助産師の電話無料相談　統計　　2020 年 1～12 月

1.月別相談件数

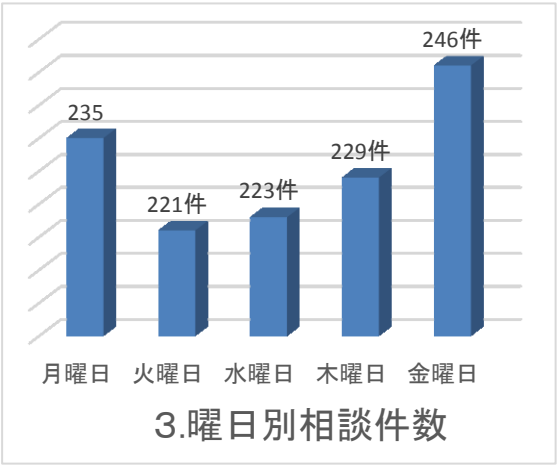
1月	84 件
2月	92 件
3月	92 件
4月	97 件
5月	90 件
6月	78 件
7月	106 件
8月	110 件
9月	113 件
10月	110 件
11月	93 件
12月	89 件
合計	1,154 件



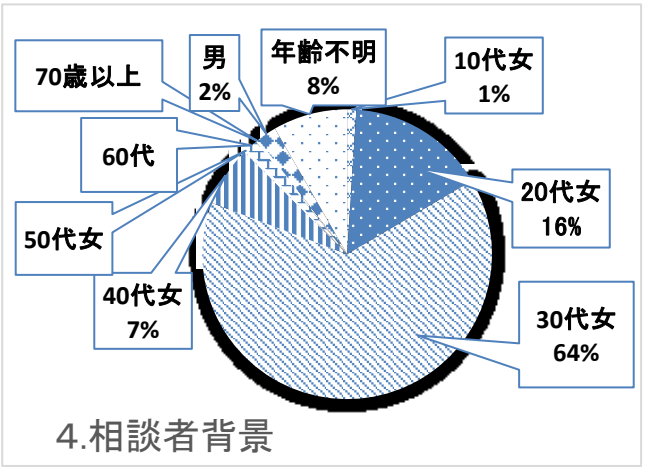
1.月別相談件数



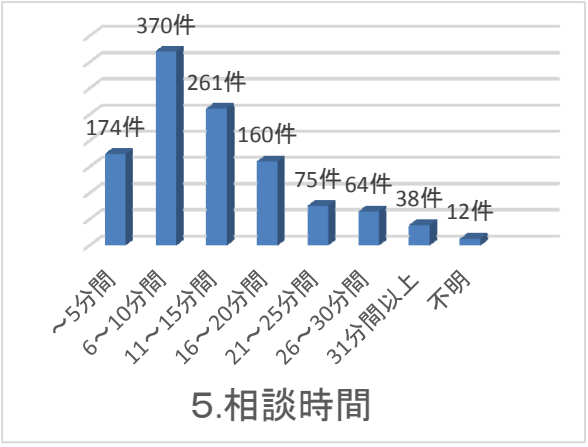
2.相談内容



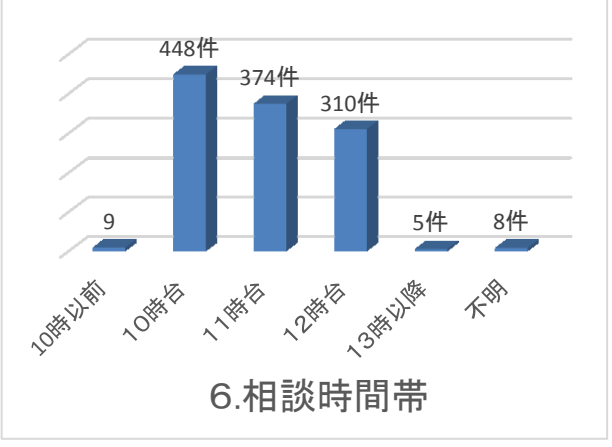
3.曜日別相談件数



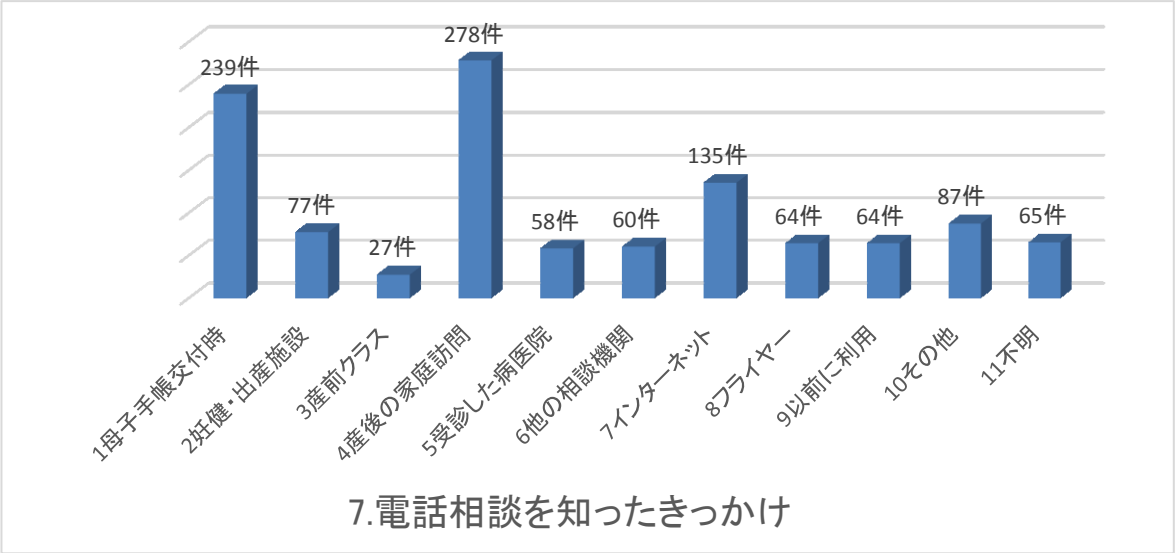
4.相談者背景



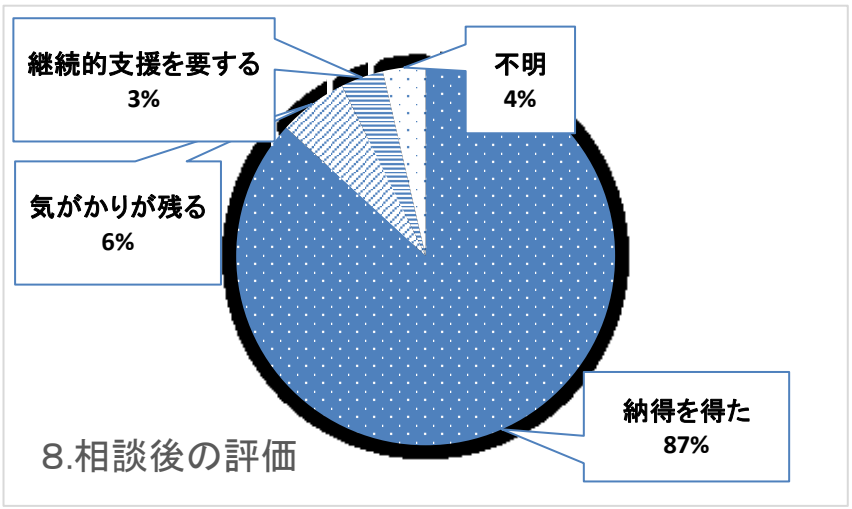
5.相談時間



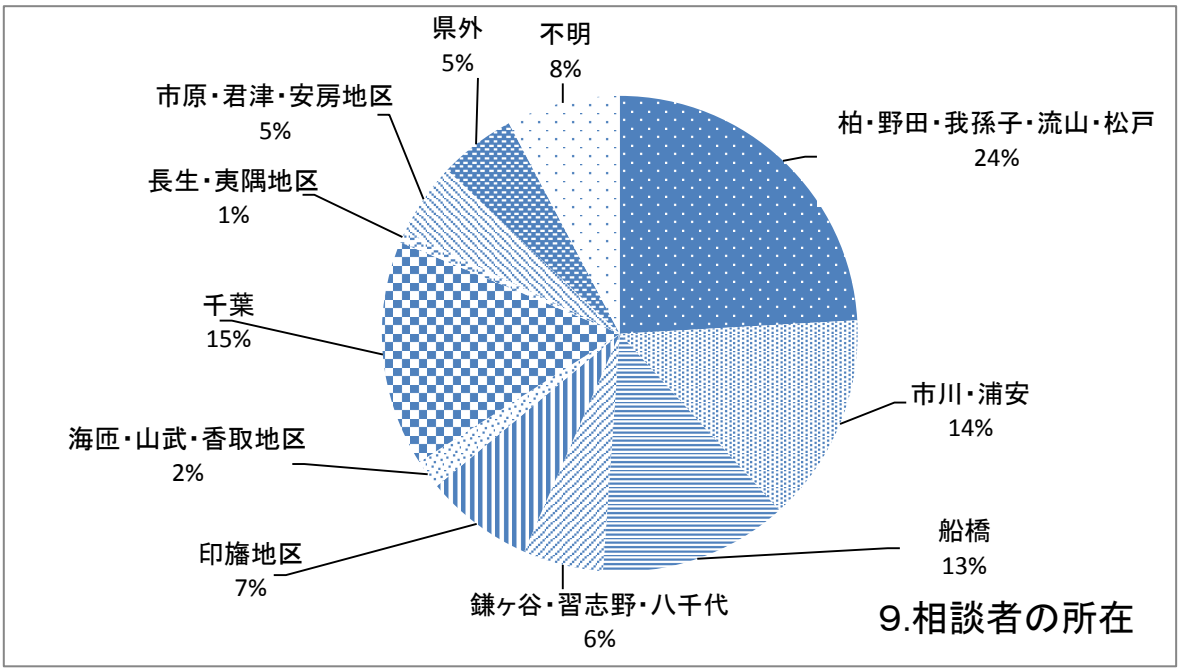
6.相談時間帯



7.電話相談を知ったきっかけ



8.相談後の評価



9.相談者の所在

３．母乳育児支援に対する安全評価アンケート集計結果

千葉県

■保健指導部会会員全員に配布した。

①　発送対象者数(135 名)　②回収枚数(66 名)　③回収率（48.8%)
④「母乳育児支援をしていない」と返答があった（ １ ）名
⑤ 母乳育児支援評価対象者数(65 名)　⑥保健指導型有施設助産所数（32 か所）

※ ⑤母乳育児支援評価対象者数=回収数－「母乳育児支援をしていない」会員数です。
※「母乳育児支援をしていない」と回答した者は無回答に含めない

項目	評価基準	できている	できていない	無回答	自由記述
説明と同意	支援する内容に対して、事前に説明が行われ、同意を得ている	64	1	0	健康センターで実施・触診後に説明
	提供される支援の料金が明示されている	54	6	5	市の新生児訪問や産後ケケア料金の明示なし・無料相談
対象へのプライバシーの配慮	対象の情報について適切に扱われている	64	1	0	
	対象のプライバシーが守られる環境が整備されている	63	2	0	個別相談・現在はコロナのため完全入れ替えだが、収束後はできない
記録	母乳育児支援に関連した記録が行われ、保管されている	64	1	0	紙カルテのみ・健康センターで保管・5 年間保存
	家庭訪問時の対象のカルテが適切に扱われている	57	8	0	訪問をしていない・注意している
安全確保のための体制	対象児の成長発達(特に体重増加）が正しく評価できている	64	1	0	
	安全のための講習会を年１回以上受けている	38	27	0	予定していた講習会が中止・母乳育児に限定した講習会は毎年受けていない
他職種との連携	母乳育児支援における他職種との連携が取れている ①医療職との連携 ②保健福祉関係職との連携	62	3	0	乳房トラブルは扱っていない・契約している医院はない・健康センターと共同・協力施設が少ない
助産所の運営	安全管理指針を作成している	34	17	14	乳房ケアはやっていない・助産所運営をしていない・
	感染防止のための対策が整備されている	48	2	15	助産所運営をしていない・現在オンラインのみ・コロナのため全て個別
	使用物品が正しく使われている	51	1	13	助産所運営をしていない
事故防止	器材が安全に管理され、使用されている	47	16	2	保湿器具は使用なし・健康センターで実施・定期管理 ベビースケールが市の検定外品・自分でチェック
	ヒヤリハット事例の報告をしている	59	2	4	報告事例なし・ヒヤリハットマニュアル
事故への対応	事故発生時は速やかに対応し、報告している	57	3	5	報告事例なし・報告の手順を理解していない
	賠償責任保険に加入している	57	6	2	病院で保険加入

４．令和２年度　健康教育活動報告　　2020 年 1 月～12 月

１．実施回数

●対象者		1地区	2地区	3地区	4地区	5地区	6地区	7地区	9地区	合計
就学前		0	0	0	2	0	0	0	0	2
小学校		46	15	0	26	10	10	15	16	138
中学校		15	6	2	10	1	1	10	9	54
高等学校		1	0	0	0	0	1	2	1	5
特別支援学校	小学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中学部	0	1	0	0	0	0	1	0	2
	高等部	0	0	0	0	0	0	0	0	0
PTA・保護者		2	1	0	14	0	2	12	0	31
大学・専門学校		0	1	0	0	0	0	3	0	4
社会人		0	0	0	4	0	0	2	0	6
その他	公民館・女性センター等	0	2	0	3	0	0	4	0	9
	保健師・教員(薬剤師・保育士	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	その他	0	1	0	0	0	0	0	0	1
合計		64	28	2	59	11	14	49	26	253

２．依頼者

●依頼者		1地区	2地区	3地区	4地区	5地区	6地区	7地区	9地区	合計
学校・幼稚園・保育園		58	23	0	33	9	2	20	9	154
PTA・保護者		4	1	0	18	0	0	8	0	31
市町村等行政団体（保健所・保健センター等）		2	3	2	3	0	12	2	7	31
その他	教育委員会	0	0	0	0	2	0	2	10	14
	県の男女共同参画事業	0	0	0	0	0	0	2	0	2
	母子推進委員会	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他主催	0	1	0	5	0	0	15	0	21
	子育て支援センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	薬剤師会・民間保育振興会	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		64	28	2	59	11	14	49	26	253

述べ人数

●対象者		1地区	2地区	3地区	4地区	5地区	6地区	7地区	9地区	合計
就学前		0	0	0	33	0	0	0	0	33
小学校	1年生	0	0	0	0	0	0	2	0	2
	2年生	241	0	0	0	0	0	3	0	244
	3年生	117	57	0	0	60	0	1	0	235
	4年生	761	133	0	335	213	72	168	31	1713
	5年生	531	918	0	1026	57	97	80	201	2910
	6年生	2091	60	0	1160	215	125	301	332	4284
中学校	1年生	413	0	0	18	0	52	122	0	605
	2年生	906	660	207	23	0	0	671	241	2708
	3年生	894	0	160	661	128	0	320	648	2811
高等学校	1年生	0	0	0	0	0	79	840	330	1249
	2年生	350	0	0	0	0	0	0	0	350
	3年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特別支援学校	小学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中学部	0	18	0	0	0	0	86	0	104
	高等部	0	0	0	0	0	0	0	0	0
PTA・保護者		788	208	0	345	0	17	215	0	1573
大学生・専門学校生		0	40	0	0	0	0	47	0	87
社会人		0	0	0	59	0	0	33	0	92
その他	公民館・女性センター	0	14	0	24	0	0	77	0	115
	保健師・教員(薬剤師・保育士)	344	107	12	168	0	0	79	0	710
	その他	0	0	8	0	0	0	0	0	8
合計		7436	2215	387	3852	673	442	3045	1783	19833

助産師会作成のパワーポイントを使用した回数	助産師が行う思春期視覚教材	0
助産師会作成ビデオ（DVD）を使用した回数	ホンネで話そう生と性(中学生編)	0
	ホンネで話そう生と性(高校生編)	0
	命の誕生	0

５．令和２年　生と性の健康教育活動実績

１．登録講師

1)千葉県助産師会登録講師は 48 名であった。【表 1】

２．生と性の健康教育件数

1)講演回数は、総数　253　回

そのうち中学校が 54 回、小学校が 138 回、次いで保護者が 31 回であった。

2)講演参加者総数　19833 人であった。

3)千葉県助産師会のホームページの講師依頼の申し込みフォームの件数は 14 件であった。

（依頼総数件 253 のうち約 5．5%が申込みフォームからの依頼であった。）

コロナ禍で令和 2 年 3 月 2 日から突然の休校となり、卒業前の健康教育がすべて中止になった。6 月に新学期が始まってからも、一旦講師依頼があったにもかかわらず、コロナ禍を原因にその後キャンセルとなった講座もあり、あわせて 129 件が開催できなかった。

一方で開催できた講座は、それぞれの行政の施策や学校の考え方を踏まえ、安全に行えるよう様々な工夫を行った。①講座の時間短縮。「講座の内容をいつもの内容から厳選した」「二次性徴については学校で事前学習してもらい、命と性について助産師が担当した」など。②学年毎に開催していたものをクラス毎で開催。③狭い会場から体育館などの広い会場へ。④体育館いっぱいにソーシャルディスタンス。その際は教材が見え辛い子どもが出てくるので「助産師が話しているところを教師が撮影し、スクリーンに映しながら行った」「教材を使用せずパワーポイントに切り替えた」など。⑤リモートの活用。「学校への保護者の立ち入りが制限されたため、子ども達への授業を保護者に配信したケース」「児童・生徒向け、保護者向けオンライン授業」など。

長い休校で授業数も足りない中で、それでも開催したいと動いてくださった教師や保護者からは「この授業だけは何があってもやりたいと思った」という言葉も多く聞かれ、長い時間をかけ地域の中で信頼関係を築いてこられたことを改めて感謝したい。

【表 1】登録講師数

地区名	講師数(人)
1地区	5
2地区	5
3地区	4
4地区	7
5地区	12
6地区	4
7地区	6
9地区	5
その他	0
合計	48

【表 2】実施回数と参加者数

	回数		参加者数	
	令和元年	令和2年	令和元年	令和2年
就学前	3	2	45	33
小学校	151	138	12244	9388
中学校	160	54	23340	6124
高等学校	20	5	4721	1599
特別支援学校	6	2	66	104
大学生他	23	4	1435	87
PTA・保護者	40	31	4547	1573
社会人	45	17	1327	925
	448	253	47726	19833

【表 3】コロナを原因にキャンセルとなった講座数

		1地区	2地区	3地区	4地区	5地区	6地区	7地区	9地区	合計
就学前		0	0	0	2	0	0	0	0	2
小学校		2	1	0	11	3	2	11	0	30
中学校		18	4	7	5	0	2	24	0	60
高等学校		0	0	0	2	0	0	2	2	6
特別支援学校	小学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中学部	0	4	0	0	0	0	0	0	4
	高等部	0	0	0	0	0	0	0	0	0
PTA・保護者		0	4	0	4	0	0	4	0	12
大学・専門学校		0	7	0	0	0	0	4	0	11
社会人		0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	公民館・女性	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	保健師・教員	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	その他	0	0	0	2	0	0	0	0	2
合計		20	21	7	27	3	4	45	2	129

６．令和２年　県内助産所分娩数　統計（1 月～12 月）

分娩取扱い	有床（8 ヶ所）	出張（4 ヶ所）	月別合計
1 月	8	2	10
2 月	10	1	11
3 月	9	1	10
4 月	6	1	7
5 月	7	0	7
6 月	11	1	12
7 月	7	2	9
8 月	8	2	10
9 月	8	1	9
10 月	10	1	11
11 月	8	0	8
12 月	7	3	10
合計	99	15	114

※参考　　平成 30 年度　142 件・・・有床（10 ヶ所）：133 件、出張（5 ヶ所）：9 件
　　令和元年度　131 件・・・有床（８ヶ所）　：113 件、出張（4 ヶ所）：18 件

７．令和２年度　千葉県助産師会　災害対策活動

〈防災訓練関連〉

6 /29	九都県市合同防災訓練 第１回全体会議 コロナ禍により参加中止	金子(真)、塩見
10/12	災害発災時初動動作シミュレーション訓練	会員全員

〈災害時支援協定　(令和３年１月現在)〉

成田市、佐倉市、浦安市、千葉市、船橋市、松戸市、習志野市

〈研修会〉

11/21	災害対策委員会連携集会	塩見
1/17	千葉県小児周産期リエゾン研修会	塩見

８．令和２年度「国際助産師の日」のつどい報告

実行委員　清水清美・石毛光代・佐々木美喜・宮澤純子・山田万希子・五十部恵

経過報告

2020 年 5 月 24 日（日）城西国際大学にて国際助産師の日を開催することを目標に、6 地区メンバーは 1 年前から準備してきました。しかし、2019 年 12 月には中国において COVID-19 が集団発生し、2020 年 1 月には日本国内で感染が拡大、それでも 5 月には収束するのでは？という期待のもと、チラシを作成し、開催においてご協力をいただくために、6 地区の 13 市町村、8 地区の 11 市町村に、庶務の力を借りて公文書を作成・発送しました。しかし、4 月 7 日には緊急事態宣言が発出され、止む無く開催中止の決定をしました。

理事会では「2021 年度開催」というお役目を賜り、COVID-19 の収束状況を願ってきましたが、2021 年 2 月 7 日の緊急事態宣言の再発出を鑑み、千葉県助産師会として、2021 年の国際助産師の日つどいの開催は中止することとなり、6 地区の役割はここで終了させていただくことになりました。

2021 年度は、COVID-19 の状況もありますが、各々の地区で、小規模でできる「国際助産師の日つどい」を企画することになりました。

9．要望書・請願書

千助第０２００５号
令和２年８月21日

千葉県知事
森田　健作　様

一般社団法人千葉県助産師会
会長　　武田　智子

要望書

一般社団法人千葉県助産師会は、助産師職の専門団体として、次世代を担う子供たちを安心して生み育てられる社会を目指し、妊娠・出産・育児に対する活動を行っております。
千葉県内どこに住んでも、母子とその家族が、安心、安全に出産、子育てが行えるよう、産後ケア及び自然災害・新型コロナウイルス感染対策の提供体制のさらなる推進を図られますよう以下について要望いたします。

要望事項

１．産前産後ケアサービス充実のための環境整備を図られたい。
１）産前産後サービスの充実のため助産所の活用を図られたい。

２．成長発達段階に応じた次世代育成のための「心と身体の健康教育」の推進を図られたい。

３．災害時の母子支援について対策を強化されたい。
１）災害時に助産所を包含した形で、千葉県内のネットワークを整備されたい。
２）災害時母子福祉避難所の設置推進。

４．新型コロナウイルス感染防止対策の強化をされたい。
１）助産所を含めた医療機関への情報及びネットワーク整備をお願いしたい。
２）助産所への資材、衛生材料等の確保がスムーズにいくよう検討願いたい。

５．妊産婦健康診査票における公費負担は、施設による区別なく同様に受けられるように整備されたい。

６．妊娠、出産、育児に対する助産師の専門性が必要な「電話無料相談」における公的な支援制度の充実を図られたい。

要望理由

１． 産前産後ケアサービス充実のための環境整備を図られたい。

１）産前産後サービスの充実のため助産所の活用を図られたい。

「子育て世代包括支援センター」（母子保健包括支援センター）では、妊娠から子育て期までの継続ケアの提供を目指している。妊娠・出産・育児は２４時間３６５日行われるものと考えると、公共機関における平日、日中だけの対応では十分とは言い難い。すでに助産所における「子育て支援」を実施しており、既存の施設の活用をして行政の「子育て世代包括支援センター」との協働も期待されている。平成２９年３月１７日医療法施行規則の改定では、分娩を取り扱わない助産所では、分娩施設が不要となった。これにより分娩を取り扱わない助産所は分娩室がなくとも産前産後ケアを施すための入所施設として運営できるほか、当初から分娩室を持たない入所型の産後ケア施設を設置することも可能となった。

２． 成長発達段階に応じた次世代育成のための「心と身体の健康教育」の推進を図られたい。

「健やか親子 21（第２次）の中間評価等に関する検討会報告」から、学童期・思春期から成人期に向けた保健対策において、特に十代の性に関する課題、食生活等生活習慣に関する課題について更なる取り組みの充実が必要と指摘されているところである。そのためには正しい知識を身に付けることの重要性が強く指摘されている。自身の健康管理、家事や育児に関する教育は重要な視点と考えるが、社会で自立して活躍することと、子どもを産み育てることの両立には多くの負担がある。学校教育現場での教育だけでは限界もあり、それこそが出生数に影響を与えていると考える。

そこで、本会では以前から小中学校を対象にした「いのちの出前講座」をはじめとして地域で活躍する助産師が中心となって、性教育、思春期健康教育、など成長発達段階に応じた「心と体の健康教育」を実施している。

教育効果として、「いのち」や「子どもを産み育てる」ことへの漠然としたイメージが発達段階に応じてより具体化し、自らの生活や今後のキャリア、家族との協働を考える機会となっていることが明らかになっている。

子どもたちが社会で自立し活躍できるために行われるキャリア教育の充実､推進の一環として、健やかに産み育てられるライフプランについても考えられるよう、心と体の健康教育を発達段階に合わせて計画し推進頂きたい。

３． 災害時の母子支援について対策を強化されたい。

１）災害時に助産所を包含した形で、千葉県内のネットワークを整備されたい。

昨年の千葉県を襲った台風１５号、１９号の甚大な被害時に独自に協力助産院等を立ち上げ、妊産褥婦に避難場所の提供を行なった。災害時において契約を締結している７市（佐倉、浦安、千葉、松戸、習志野、船橋、成田）において直接依頼はなかった。また、南房地区からの依頼があったが、救助行動までには至らなかった。この点を踏まえて千葉県下の危機管理時に連携、協力が円滑にいくように通知を定められたい。

２）災害時母子福祉避難所の設置推進

災害時、母子は避難所での授乳、泣き声等への配慮から避難所を避ける傾向がある。また妊婦は避難所で災害弱者として声をあげにくく特別な配慮がされないまま我慢が強いられる現状が考えられる。このような事情から、支援が必要な妊産婦や母子の把握が困難となっている。母子福祉避難所の設置を推進し、災害時には速やかに母子が避難できる仕組みの検討が急がれる。

４．新型コロナウイルス感染防止対策の強化をされたい。

１）助産所を含めた医療機関への情報及びネットワーク整備をお願いしたい。

新型コロナウイルスの感染拡大における緊急事態宣言は解除されたが、引き続き感染拡大が懸念される日々が続いている。この度「新型コロナウイルス感染症対策」情報は厚生労働省から発信され、日本助産師会からもたらされたものであった。千葉県から助産師会への発信情報は受け取ることが不可であった。緊急事態時の速やかな情報支援されたい。

２）緊急事態に助産所への資材、衛生材料等の確保がスムーズにいくよう検討お願いしたい。

多岐にわたる母子保健事業を変わらなく実施するためにはマスク、消毒液、予防衣の衛生材料が欠かせない。妊産褥婦・乳児及び家族への感染防止とともに助産師の感染対策を講じ、望ましい環境で母子健康を支援されたい。

５． 妊産婦健康診査受診票における公費負担は、施設による区別なく妊産婦が同様に受けられるように整備されたい。

妊娠健康診査受診時に使用する「妊婦健康診査受診券」（１４回分）は県内において助産所で使用不可の利用券が存在する。妊産婦への不利益を起こさない措置の検討が急がれる。

６． 妊娠、出産、育児に対する助産師の専門性が必要な「電話無料相談」における公的な支援制度の充実を図られたい。

子育て・女性健康支援センターによる電話無料相談に対して財政上の支援をされたい。

千助第０２０００６号
令和２年８月21日

自由民主党千葉県支部
政調会長　伊藤　昌弘様

一般社団法人千葉県助産師会
会長　　武田　智子

請願書

一般社団法人千葉県助産師会は、助産師職の専門団体として、次世代を担う子ども達を安心して産み育てられる社会を目指し、妊娠・出産・育児に対する活動を行っております。
千葉県内どこに住んでも、母子とその家族が、安心、安全に出産、子育てが行えるよう、自然災害・新型コロナウイルス感染対策の提供体制のさらなる推進を図られますよう以下について請願いたします。

請願事項

１．妊娠、出産、育児に対する助産師の専門性が必要な「電話無料相談」における公的な支援制度の充実を図られたい。

２．災害時の母子支援について対策を強化されたい。
１）災害時に助産所を包含した形で、千葉県内のネットワークを整備されたい。
２）災害時母子福祉避難所の設置推進

３．新型コロナウイルス感染防止対策の強化をされたい。
１）助産所を含めた医療機関への情報及びネットワーク整備をお願いしたい。
２）助産所への資材、衛生材料等の確保がスムーズにいくよう検討願いたい。

４．妊産婦健康診査票における公費負担は、施設による区別なく同様に受けられるように整備されたい。

請願理由

１．妊娠、出産、育児に対する助産師の専門性が必要な「電話無料相談」における公的な支援制度の充実を図られたい。

１）本会において子育て・女性健康支援センターを設置し、平日（土、日祭日休）「電話無料相談」を実施している。５年前から年間１２００件以上の相談が挙がってきている。すべて助産師による子育て支援である。この既存の資源を活用されるように予算措置の拡充をお願いしたい。

２．災害時の母子支援について対策を強化されたい。

１）災害時に助産所を包含した形で、千葉県内のネットワークを整備されたい。

昨年の千葉県を襲った台風１５号、１９号の甚大な被害時に独自に協力助産院等を立ち上げ、妊産褥婦に避難場所の提供を行なった。災害時において契約を締結している７市（佐倉、浦安、千葉、松戸、習志野、船橋、成田）において直接依頼はなかった。また、南房地区からの依頼があったが、救助行動までには至らなかった。この点を踏まえて千葉県下の危機管理時に連携、協力が円滑にいくように通知を定められたい。

２）災害時母子福祉避難所の設置推進

災害時、母子は避難所での授乳、泣き声等への配慮から避難所を避ける傾向がある。避難所の妊婦は健康弱者であるにもかかわらず支援の声をあげにくく、特別な配慮がない中我慢が強いられる現状が考えられる。このような事情から、妊産婦や母子は避難所を避ける傾向にあり、支援が必要な妊産婦や母子の把握が困難となっている。母子福祉避難所の設置を推進し、災害時には速やかに母子が避難できる仕組みの検討が急がれる。

３．新型コロナウイルス感染防止対策の強化をされたい。

１）助産所を含めた医療機関への情報及びネットワーク整備をお願いしたい。

新型コロナウイルスの感染拡大における緊急事態宣言は解除されたが、今後も感染拡大が懸念される日々が続いている。この度「新型コロナウイルス感染症対策」情報は厚生労働省から発信され、日本助産師会からもたらされたものであった。千葉県から助産師会への発信情報は受け取ることが不可であった。緊急事態時の速やかな情報支援されたい。

２）緊急事態に助産所への資材、衛生材料等の確保がスムーズにいくよう検討お願いしたい。

多岐にわたる母子保健事業を変わらなく実施するためにはマスク、消毒液、予防衣等の衛生材料が欠かせない。妊産褥婦・乳児及び家族への感染防止とともに助産師の感染対策を講じ、望ましい環境で母子健康を支援されたい。

４．妊産婦健康診査受診票における公費負担は、施設による区別なく妊産婦が同様に受けられるように整備されたい。

妊娠健康診査受診時に使用する「妊婦健康診査受診券」（１４回分）は県内において助産所（有床・無床）で使用不可の利用券が存在する。妊産婦への不利益を起こさない措置の検討が急がれる。